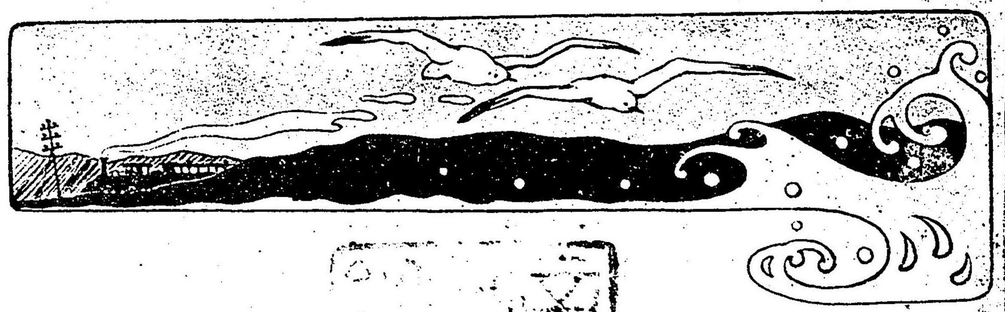
339
118

山陰名勝乃栞

鐵道畫報社

339-118



はしがき

我裏日本たる山陰道の風光は、之れを表日本のそれに比せん乎、彼れは艶麗美女の如く、是れは壯烈勇士に似たり、然れども山陰諸州は古來交通最も不便の地なりしを以て、多く都人士の遊杖を曳くこと稀れなりしが、今や鐵路は坦々として通じ行旅頗る至便となれり、故に本書は山陰線中福知山出雲今市間及米子堺間延長約百九十五哩に亘る沿道の風物を叙して、各位が探勝遊覽の栞たらんとす唯憾むらくは紙數に限りありて精細を盡さゞるを。

1.10.2
図書

所載目次

福知山驛 三
舊城址、元伊勢宮、大江山 雪の白濱
上川口驛 四
金山天寶寺 美驛 三
下夜久野驛 五
鳴岩、古墳 浦富海岸、海水浴場、金峯神社、岩井温泉、綱代港 駅 三
上夜久野驛 五
玄武石、夜久野原古戰場 鹽見 驛 三
梁瀬驛 六
要鹿神社 善光院 鳥取驛 三五
和田山驛 七
赤淵神社 鳥取城址、樗谷神社、宇倍神社、聖神社、湖遊、敷地、馬場、荒木又右衛門の墓、智頭の杉林、雨滝、布引滝、賀露港、安德天皇御陵、摩尼寺、吉方温泉
養父驛 七
養父神社 湖山驛 三〇
八鹿驛 七
鮎狩、鶴山 賓驛 三二
江原驛 九
白兎神社、淀津海水浴 木驛 三三
豐岡驛 九
雅成親王御陵、大石陸子墓 淀村驛 三三
城崎驛 一一
城崎温泉、温泉寺、東山公園、玄武洞、津居山港、瀬戸日和山 濱村温泉、勝見温泉、幸盛寺、鹿野古城址、山中幸盛の墓 谷驛 三四
竹野驛 三
竹野神社、加島山 青谷驛 三五
佐津驛 一四
沖野大明神、輪寶城址、黃金の松 八葉寺、長尾山下の風色、青谷古城址 泊驛 三五
香住驛 一六
鷄上山、大乘寺 泊海岸 松崎驛 三六
鎧驛 一七
平家の末裔、餘部鐵橋 東郷湖、東郷温泉、淺津温泉、佐津の桃山神社、羽衣石城址 御來屋驛 三七
久谷驛 一九
姥親峠 濱坂驛 一九
宇都野神社、楞嚴寺、相應寺、湯村温泉 打吹公園、長谷寺、三德山三佛寺、三朝温泉、關金温泉、山田温泉 倉吉驛 三八
居組驛 三
由良驛 二九
由來古城址、舊砲台 淀江海水浴、古代の石馬 大山驛 四〇
八橋驛 四〇
上畑藥師 大山、大神山奥社、大山寺、洞明院 赤碕驛 四〇
船上山、軍馬養成所 阿彌陀堂、尼高古城址、日野川 米子驛 四〇
下市驛 四一
退休寺 米子城址、米子公園、瑠璃内御王墓 安來驛 四一
名和神社、元弘帝御行宿處 十神山、南山公園、清水寺、雲福寺、廣瀬町、北斐山 荒島驛 四二
大根島、夜見ヶ濱 境驛 四二
美保關、美保神社、地蔵ヶ崎、野波 美保驛 四二
淀江驛 四二
須知驛 四二

福知山驛

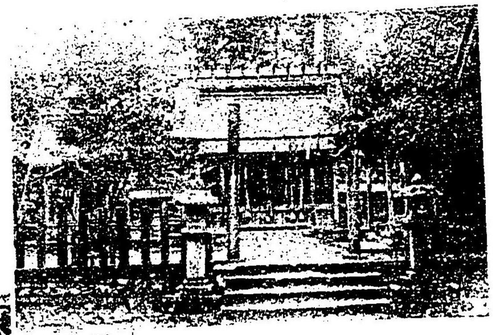
京都府下丹波國天田郡福知山町に在り、町は當國第一の都會にして戶數約二千餘人凡一萬二千を有し舊柄太近江守三萬二千石の城下なり、由良川市街の東を流れ鐵路は南より來つて東に走れる阪鶴線の外別に西和田山に向つて播但線に接續する山陰線あり水陸の交通の利便山國稀れに見る所なり、故に商工の業近年頗る隆盛に赴けり

◎ 和泉式部

丹波なる吹風の山のもみぢ葉は
散らぬさきより散るるかさぞ思ふ

◎舊城址　驛より東約三丁字城山に在り元龜天正の頃横山大膳の築く所にして一に龍ヶ城と云ふ、横山氏沒して明智光秀之を領し、光秀誅服の後は羽柴秀勝再び修理し夫れより杉原、小野木、有馬松平と城主交代すること四度、寛政年間柄木氏移封せられ三萬二千石の治府として明治維新に至れり、今城址には柄木氏の祖廟を祀りたる朝暉神社在り社頭の眺望甚だ佳なり

◎元伊勢宮　驛より北約三里半加佐郡上河守村に在り、今の伊勢太神宮は遠く神代より此地に鎮り給ひしを、雄略天皇の御宇伊勢國度會郡に遷し奉れるより、今尚元伊勢宮と稱し崇敬する者多し、社は内外二宮に分れ其距離約一里にして、各岡陵の上に鎮座し摂社末社十數宇在り、又麓に五十鈴川流れ宇治橋架せられ内宮の附近には天の岩戸在り總て伊勢神宮に似て宮域清



元伊勢外宮

元伊勢内宮

淨幽邃、眞に太古の面影あり

◎大江山　驛より凡七里天田郡金山村に峙ち一は千丈ケ嶽と稱す、傳云往古酒呑童子なる兇賊棲み、茨木猪熊と云へる二副將を從へ白晝村落都市を横行し財を奪ひ婦女を誘拐し狂暴至らざるなし、正暦年間源頼光勅を奉じて來り之を誅すと、風雨多年今は掠奪の財寶を藏せし洞窟存するのみなれども、頼光の勸請せる大江山稲荷社頭の眺望は雄渾壯大なり

物産　竹、木材

大江山鬼の岩窟

名物　鮎、鯉、

旅館　加壽儀樓、平佐樓、船橋樓、荒川樓、亀の家

上川口驛

福知山より四哩一分

京都府下丹波國天田郡上川口村大字上小田に在り、當村は戸數約千人口凡六千を有し村民の多くは農業の傍養蠶に從事す

◎金山天寧寺　驛より北約一里半上川口村大字大呂に在り、貞治四年愚中和尚の草創に係り足利義持の祈願所として郡内第一の名刹なり本尊には釋迦如來を安置し本堂、開山堂、客殿、方丈等宏壯なる諸堂宇斷續として相連り境内頗る閑雅なり、寺寶には後小松帝の勅額義持總門の額面等あり、勅額に

勅、晦迹韜光、以安心空門、是道人之本心、立號易名以優寵旌異、是王者之良規、丹州路金山

天寧寺

愚中和尚、褒靈山單傳元正音、得少室密付的旨雖寄身於林壑、而名咤宇宙、其道甚尊顯、心切基元、誠日佛德大道禪、師應永十六年五月十六日

物産　木炭、木材、楮、三椏、石材、蒟蒻玉

旅館　大勝屋、蛭屋(以上立原村)

下夜久野驛

福知山より八哩六分

京都府下丹波國天田郡下夜久野村字額田に在り當村は戸數約七百人口凡四千を有す

◎鳴岩　驛より西四丁線路の右方に當れる山麓は一大岩石露出せり耳を寄すれば嚠々として恰も遠雷を聞くが如し、是れ岩の根地底を奔流する瀑布などに觸れて其音響を傳ふるものにやあらん

◎古墳　驛より西約一里上夜久野驛との稍中央、中夜久野小學校庭内に在り何人の墳墓なるや舊記の徴すべきものなしと雖も、其構造より察するに古代貴人の墳塋たるや疑ひなし、此の古墳は前述の鳴岩と共に車窓より望見し得べし

物産　木炭、木材、製紙原料

旅館　出嘉樓、中路亭、萩野亭、市川亭、八額亭(料理兼業)

上夜久野驛

福知山より十三哩三分

京都府下天田郡上夜久野村字平野に在り、當村は戸數六百七十五人口三千五百餘を有し多く養蠶及蠶紙製造を

夜久野高原の秋

業とす

◎玄武石　驛より東約十三丁下夜久野驛より當驛に至る線路の左側、由利隧道西口の山麓に塔の如く羅列し頗る偉觀なり

◎夜久野原古戰場　驛より西二丁、夜久野隧道を穿てる高原一帶の總稱にして、滿丘悉く芝草を以て蔽はれ、春は青氈を敷けるが如く、秋は七草生茂りて宛然奈良三笠山に髣髴たり、而して地は應仁の昔細川山名兩軍對陣して干戈を交へしと傳ふるに至りては更に詩趣深きを覺ゆ、又此原は古へ狼群出沒して屢々旅人を惱ませしかば、里人狼害を避くる爲め一宇の茶堂を建てゝ旅客の休泊に充てたり、此堂今猶存し堂上よりの眺目甚だ佳なり

◎

此の山河兵用ゆべき枯野かな　鳥村

物産　木材、炭、製紙原料、繭

旅館　橋本屋、安達樓、月見樓（料理兼業）

梁瀬驛

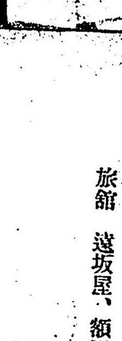
福知山より十六哩九分

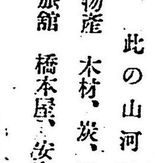
兵庫縣但馬國朝來郡梁瀬村字瀬田に在り、當村の戶數七百人口約四千を有し製絲業頗る盛なり

◎粟鹿神社　驛より東三十丁粟鹿山麓に在り、祭神は日子座王命にして其鎭座は遠く崇神天皇の御宇なり、社殿は天武天皇の御代に建立せられ、慶雲三年文武帝又奈良使を差遣せられたり、弘安四年蒙古の軍我が筑前を襲ふや後宇多天皇勅使を派して敵軍退散を祈り正一位勳十二等粟鹿大明神の勅額を賜ふ、社殿宏壯攝社末社多く、境内に御手洗池ありて風致古雅なり、又附近正勝稻荷社在り參者常に絶へず

物産　木材、生絲、木炭、名物窓の梅酒

旅館　遠坂屋、額田屋、





和田山驛

福知山より十九哩

兵庫縣但馬國養父郡大藏村字東谷に在り、和田山は戶數二百二十餘人口一千六百を有する小邑に過ぎずと雖も播但線山陰線の接續點なるを以て交通甚だ便なり

◎赤淵神社　驛より東南約二十丁牧田村字內高山麓に在り、社記詳らかならざるも社後の小丘には櫻楓の二樹多く春花秋葉の眺め甚だ美なり、此他同村字玉置村の北方昌利場には護念寺とて但馬西國十六番の札所在り

物産　米穀、生牛、木材、木炭、繭

旅館　染木屋、石川屋、新盛館

養父驛

福知山より二十二哩二分

兵庫縣但馬國養父郡大藏村大字堀畑に在り、養父市場村は戶數七百人口三千五百を有し、毎年一月牛馬の大糶市を催す、牛吠は馬嘶き囂々然として一時殷賑を極む

◎養父神社　驛より北約十丁延喜式內の神にして、葦原志許乎命外四神を祀る、故に五社明神とも呼ぶ、當社の攝社山口社は一に狼宮と稱し、猪鹿の害を祈れば靈驗ありとて參者多し

物産　米穀、繭、木材、木炭、生絲

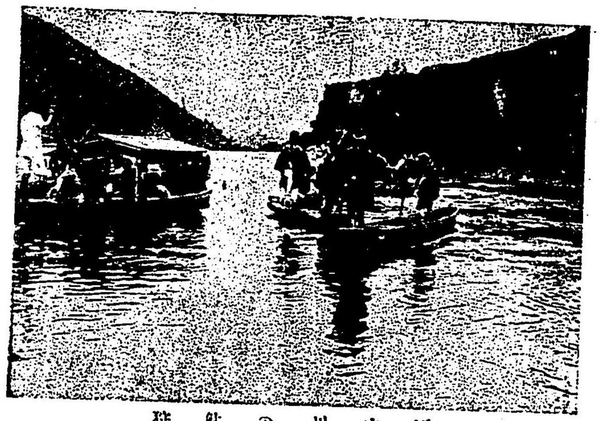
旅館　大塚屋、大忠（以上養父市場）奥村屋（大藏村）

八鹿驛

福知山より二十六哩五分

兵庫縣但馬國養父郡八鹿村に在り、當村は戶數一千三百人口約六千を有す、南方より郡の名邑出石町に來往する旅客は當驛よりせらるゝを便とす里程約二里半

◎鮎狩　驛附近を北流する圓山川には香魚多く産するを以て毎歲夏季鮎狩場を開設して遊客を迎ふ、漁法は舟巻き瀬巻き寄せ川火振り等にして銀鱗潑剌舟中に入るの光景は蓋し盛夏第一の遊樂なり



圓山川の鮎狩

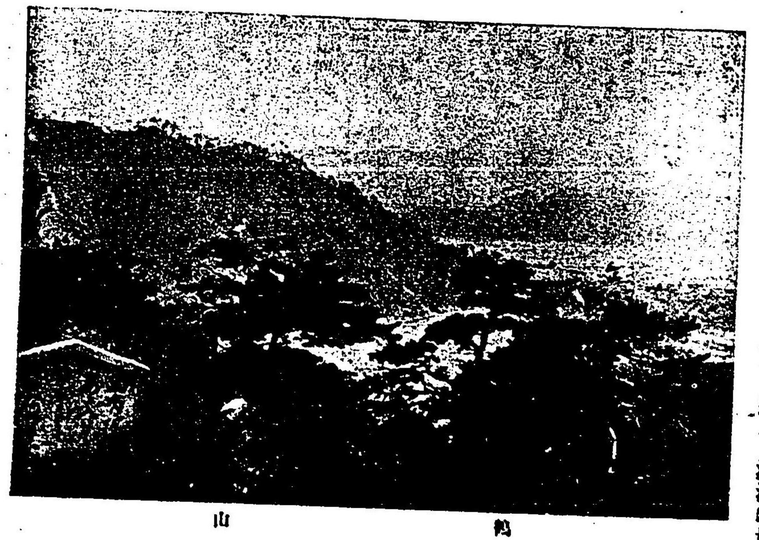
◎　五百枝

鮎を賣る娘ごつかで青葉かな

◎鶴山　は驛より約二里二十六丁出石郡宇殖村の內櫻尾に在り、日露戰役の初年より十數羽の仙鶴來つて、此の山腹の松上に巢を構へ、毎年五月より七月迄に雛鶴を產む、此巢高なる瑞鳥を觀んとて筇を曳く者多し

物產　生絲、繭、米穀類

旅館　鹿鳴館



鶴山

江原驛

福知山より三十一哩二分

兵庫縣但馬國城崎郡日高村字日置に在り、當村は戶數一千餘人口約五千四百を有す、附近訪ふべき名所古蹟なし

物產　米穀類、生果、繭、木材、薪炭

旅館　鍋屋、野村屋、角屋

雅成親王御陵墓

豐岡驛

福知山より三十七哩二分

兵庫縣但馬國城崎郡五莊村字高屋に在り、豐岡町は本郡の南部圓山川の兩岸に位する都會にして戶數一千八百人口約八千を有し、舊京極彈守一萬五千石の城下なり、當地は有名なる柳行李の產地にして年額約六十七萬圓に達すと云ふ如何に其盛大なるかを窺ふに足る

◎雅成親王御陵　は驛より約八丁本郡五莊村の內高屋村に在り、親王は後鳥羽天皇第三の皇子にましまし、彼の承久の亂に坐して同三年七月當地に遷され給ふ、故に但馬宮と稱し奉る、嘉錄三年十二月御年廿七にて落飾、建長七年二月十日黑木御殿に於て薨じ給ふ

◎大石良雄室陸子墓　驛より東甘丁目撫村に在り陸子は豐岡藩士石東源五左衛門の娘にして播州赤穗藩士大石良雄に嫁ぎ三男一女を產む元祿十四年良雄主君の仇を討たんとするに先ち陸子を其生家に歸せり、同十五年十二月良雄等復讐の報達するや、陸子雜髮して當地の正福寺に入り、法名を香林院華屋壽榮大姉と號し、元文元年十一月

豐岡町

十九日沒せり、嗚呼良雄父子等の本懐を達せしは又此賢女に負ふ所少からず

大石良雄

○

濁り江のにごりに魚はひそむとも
　　など川蟬のとらでやむべき

物産　柳行李、米穀、和酒、鰤

旅館　海士屋、竹井、水野楼、井筒屋、出石屋

料理店　せと鶴、水月、魚市、田中、觀月楼

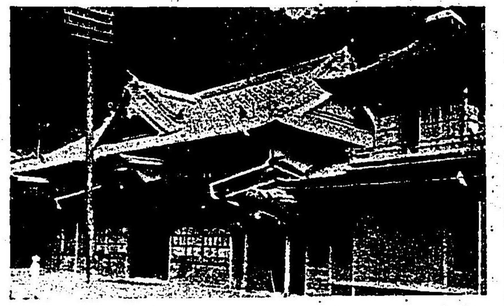
○　講演記

八十川氏に浪立ちて、君の御船は沈むとも、君は船なり臣は水、水よく船を浮べよと、古人の致へそのまゝに、赤穂浪士の人々が、赤き心や紅葉の、時雨を急ぐ唐錦、よしや嵐に亂れても、碧れは代々に龍田川……。

城崎驛

福知山より四十三哩二分

兵庫縣但馬國城崎郡城崎町の南端に在り、地は三面青山を繞らし市街は驛より西方に伸び圓山川の西岸に沿ひて、戸數凡四百五十四人口約二千三百餘を有す、古來地名を大谿又は湯島と稱し溫泉を以て名高く、今は山陰道第一の湯治場として壯麗なる溫泉旅館軒を連ね四時游客群集して甚だ殷賑を極む



城崎溫泉

○城崎溫泉　泉源は町内に七ヶ所在りて鴻の湯、曼陀羅湯、御所の湯、一の湯、柳の湯、地藏湯新湯是なり、泉質は鹽類泉にして無色透明殊に新元素ラヂウムエマナチオンを多量に含有するを以て醫治効用頗る著顯なり、今此の溫泉に就て諸書を按ずるに人皇第三十五代舒明天皇の御宇より湧出し、養老元年聖僧道智上人來り初めて浴舍を設けしを以て漸く世人に知られ爾來幾多の興亡を經て今日の盛況を見るに至れり

城崎市街

○　藤原豐持

城崎の山の岩根に湧出でゝ
　　いくらの人の齡のぶらん

◎温泉寺（おんせんじ）　は町の西方甘露峰の半腹に在り、驛より約十三丁、末代山と號し眞言宗なり、元正天皇の養老元年温泉の創始者たる道智上人の開基にして、本尊には稀文會作の十一面觀世音を安じ國寶たり、本堂は保護建造物にして規模宏壯、境内には多寶塔藥師堂等在りて山海の眺望に富む

◎東山公園　は町の東端に在る一小丘にして驛より北僅に三町、東は圓山川を隔てゝ鞍掛太白の諸峰に對し西は城崎町の甍瓦脚下に集り遙かに温泉寺の堂塔翠微の間に隱見す、北麓は卽ち桃島湖にして四顧の眺目甚だ絶佳なり

◎玄武洞（げんぶどう）　は城崎と豐岡との稍中央鶴野村大字赤石なる圓山河畔に在り、玄武洞假驛を去る僅かに五丁、洞は石柱洞又は蜂巢窟と稱へ玄武の名は柴栗山の命ずる所なりと云ふ、洞房は左中右の三に分れ各房の奥行凡そ十間餘あり內外共水成岩に屬せる六方石より成り其の狀恰も千百の石柱を縱横に積重ねたるが如く、仰げば蜂巢龜甲に似て頗る奇觀なり、右房の壁に栗山の筆に成る玄武洞の三大字を刻し洞の內外には。

玄武洞

。瀑小布懸りて更に風致を添ふ詳細は矧川の日本風景論に說く故に贅せず

◎野田笛浦

鳩文無縫綴　萬柱如雲碼
偉哉造物才　嵩洞出奇詭
把筆欲無言　天貌誰得擬

◎津居山港（つゐやまこう）　は驛より北約三十町圓山川の北海に注ぐ所に在る周圍約一里の孤島にして陸と僅に一橋を隔つ港灣聚て良好ならず雖も近海漁船の地稀なるを以て船舶の寄港するもの多し、彼の海東諸國記に、源國吉丁亥年使を遣はし來て舍利分身を賀せしむ、其書に曰く但馬州津居山關佐々木兵庫助源國吉、と想ふに往古關戍を設置して不虞に備へしもの乎

◎瀬戸日和山　は津居山の西、頂福寺と云へる古刹の傍より石階登りたる小丘なり、御待山の翠巒を負ひて後ケ島を前に、水や空なる北海千里の波濤削壁に書と散り玉と碎けて壯觀得も云はれず、附近老松の下一小祠在り雅成親王が御父後鳥羽天皇の佐渡行宮を遙拜し給ひし所なりと傳ふ、此他城崎より東三里にして丹後久美濱あり、風光明媚小天橋と稱せらる一遊の値あり

物産　柳行李、米穀、魚類、名物、麥藁細工、桑木細工、湯の花、温泉クリーム

▪竹野驛

福知山より四十八哩一分

兵庫縣城崎郡

村治は驛より四町戸數約六百五十四人口凡三千八百餘を有して北海に面す、由來但馬の海岸は多く巉嵒富湯碁の如く峙つも、獨り竹野の濱は長汀曲浦而も遠淺なれば夏季海水浴に適す、加ふるに風光雄大展望頗る廣し

鷹野神社

栗山の碑

中竹野村字草飼に在り、古書に但馬鷹野の庄とあるは卽ち此地にして、今猶竹野をたかのと訓す、竹野

◎鷹野神社（たかの）　延喜式內の官社にして驛より北約八丁竹野海濱に在り、祭神は本州の舊族富藝志比古命を主座とし菅原道眞を配祀す、社殿壯麗ならざるも壯畔に現存せる舊藩の望臺に登れば四顧の風色を一瞥

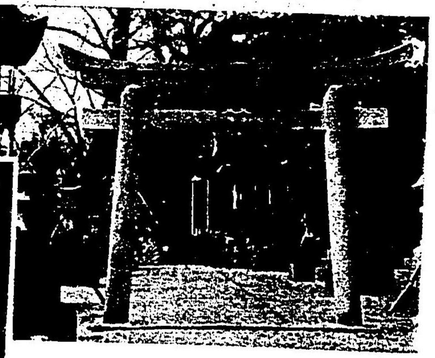
瀬戸日和山

に萃む

○加島山　竹野濱の西方、北海に突出せる小半島にして一に猫崎と云ふ、海上より之れを望めば双峰聳へて猫耳に似たるを以て斯く名付くと、試みに頂上を眺むれば美世岬東を劃し籠島冠岩等點々として碧波に泛び、西は切濱一帶の巖角峭壁の如く列なり、北は天海縹渺として其の限りを知らず、往古此の花上には櫻樹頗る多く、斷岩絶壁の上に花爛熳として波の激瀧と相映ずる樣頗る美觀なりしが、歲月と共に漸く枯死せるは惜むべし、斯る絶勝の地なれば文化四年の交柴栗山茲に遊び、眺矚の快濶なるを賞して

左右睨二隱岐佐渡及三越於肘腋一
望二滿州女直於雲天之外一
把レ酒浩然有二曠世之懷一

門と呼び、北海の怒濤絶へず岩窟に突入し來りて、飛沫十丈雪よりも白く、近けば音響雷の如し、人若し過



沖野神社

てふ名文を遺せり、此文今石碑に刻まれて山陽の峽地に現存す

物産　鮮魚、海産物、名物　蟹

（）　旬　光

荒波や春も加島の磯千鳥

佐津驛

福知山より五十二哩八分

兵庫縣但馬國城崎郡日佐津村字無南垣に在り、當村は北方海に濱して七ケの小村より成り、戶數約五百六十九人口凡三千八百餘を有し村民は多く農業漁業に從事せり

○淀の石門　竹野驛より東北約六丁訓谷村小學校の後に在り、口碑の傳ふる所に依れば、往古此地の西北海中に突出せる柴山岬の磯邊に常り夜々光輝を放つものあり、近づき見るに波浪の爲め打揚げられたる一體の神像蟠蜷たる老松の根に横はれり、里人奇異となし卽ち之れを擁して今の地に安せしに、其夜忽然として一奇石湧出し神躰を擁護するもの丶如く、耳を當つれば大海に浪濤咨くの響あり、此に於て巖を海濱山と命名し岩前に小祠を建立して神像を祀れり、其後此の神像は後醍醐天皇隱岐國より祈願を込めて海中に投じ給ひし神像三體の一なりと聞へしかば、里人崇敬措く能はず終に此地の氏神とせり

長谷部信連の碑

りて茲に陷入れば敢て生還せずと云ふ

年忘れせうか鳥なく色ケ崎

○沖野大明神　は驛より東北約六丁訓谷村小學校の後に在り、口碑の傳ふる所に依れば、往古此地の西北海中に突出せる柴山岬の磯邊に常り夜々光輝を放つものあり、近づき見るに波浪の爲め打揚げられたる一體の神像蟠蜷たる老松の根に横はれり、里人奇異となし卽ち之れを擁して今の地に安せしに、其夜忽然として一奇石湧出し神躰を擁護するもの丶如く、耳を當つれば大海に浪濤咨くの響あり、此に於て巖を海濱山と命名し岩前に小祠を建立して神像を祀れり、其後此の神像は後醍醐天皇隱岐國より祈願を込めて海中に投じ給ひし神像三體の一なりと聞へしかば、里人崇敬措く能はず終に此地の氏神とせり

○輪寶城址　は沖野神社の北方に聳ゆる山にして、高倉天皇の治承年間左兵衛尉長谷部信連平清盛の專横を憤り、以仁王を奉じて城を此山に築き平氏を討たんと檄を四方に傳ふ、兵未だ集らざるに謀泄れて敵の圍む所となる、信連力戰奮鬪して王を宇治平等院に落しまいらせ、身は重傷を被り捕へられて六波羅に護送せらるゝも屈せず、清盛終に其忠烈を賞し斬罪を赦して伯耆國へ流刑に處せり、後年源頼朝天下を統一するに及び召されて能登を賜ふと、今城址は尋ぬるによしなしと雖も、其由來を刻したる芳碑は驛前無南垣村長谷寺後に在り、川田剛博士の撰文に係る

○黃金の松　は驛より西北海上約一里、柴山港大山の東端海波常に洗ふ岩上に亭々として空を蔽ふ、此松春風駘蕩の候、其針葉盡く黃金の色に變ずるを以て名高し

○

君が代のゆるがぬ千代のためしをば
黃金の松の色にみゆめり

物産　海産物　名物　鰐、蟹、

■香住驛

福知山より五十六哩九分

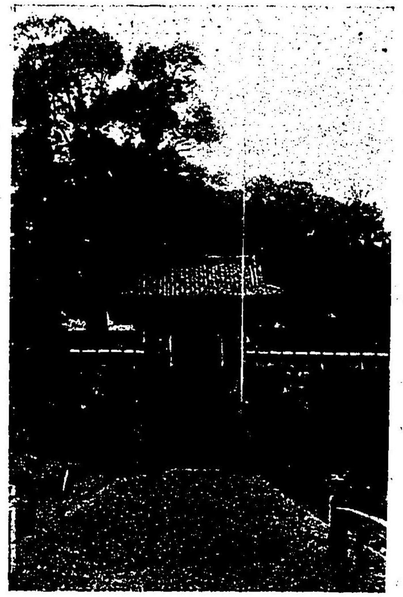
兵庫縣但馬國城崎郡香住村字七日市に在り、當村は拾ケの小村より成りて戸數約九百、人口凡五千三百を有し矢田川南より來つて北海に注ぐ所、香住の一小灣を開き、岡見半島に東廻して境濱あり、五六の小島青螺の如く其前面に點在して、風色無比夏季海水浴の好適地なり

◉御神山　は驛より北約十五丁一日市村の北端より山脚蒼海に迫る小丘にして一に天王山と云ふ、丘頂に登れば萬松落々前に白石島黑岩島等の小島嶼泛び、岸は尖巖馬耳の如く削立し波浪之れを打てば飛沫卍字の雪と散る、若し夫れ初夏より初秋に亘り夜間萬點の漁火此の沖合に明滅する樣、實に筑紫の不知火も斯くやと計り「壺目頗る壯美なり

◉大乘寺は驛より南約十丁森村に在り、龜居山と號し眞言宗高野山の末派に屬す、天平十七年聖武帝の勅を奉じて行基菩薩の草創する所なり、當寺の各室四面の襖は皆畫伯圓山應擧及其門人等の筆に成り藏する所の畫幅又盡く「圓山」派の筆なるを以て世俗一に應擧寺と呼ぶ、就中國寶に列せられたるものは書院の金襖に畫かれたる山水芭蕉幷に佛殿の老松孔雀の圖なり、聞く同寺の中興密英法印嘗て京師に在るや、屢々圓山に遊び應擧と相識る、其の窮を恤み志す所を問ふ、應擧答ふらく我れ銀三貫を得ば江戸に下り石田幽汀の門に學ばんと欲すと、法印彼れが凡筆に非ざるを知るを以て之を諾す、後應擧業成りて名天下に籍甚たるに及び深く法印を德とし、吳春及び門人蘆雪、源琦等を伴ひ來り滯在數ケ月にして現在の名畫を描き其舊館に酬ひたりと也、今畫に依りて各室の名稱並に所藏畫幅屏風の大略を誌せば次の如し

香住港口

御神公園の眺望



大乘寺

山水の間、芭蕉の間孔雀の間（以上應擧筆）、農業の間、兀山の間（吳春筆）、使者の間（守禮筆）、藤の間（規禮貞章筆）、鯉の間（應擧筆）、狗子の間（守禮筆）、仙人の間（雪章筆）、鴨の間（源琦筆）猿の間（蘆雪筆）

王羲元と龍虎の三幅對、鐘馗大幅、鯉魚登瀧の二幅對、十六羅漢屏風

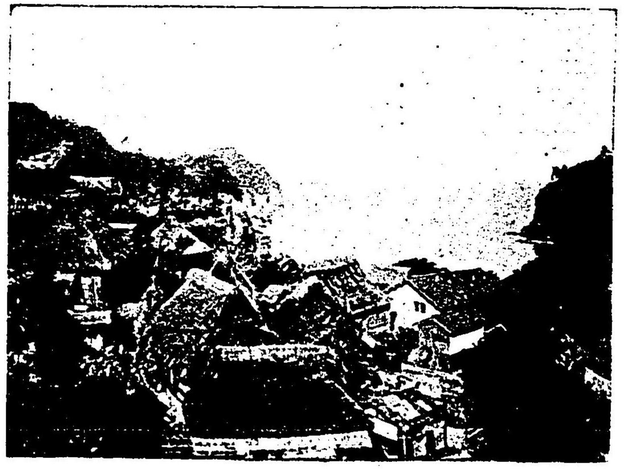
物產　木炭、鮮魚、生果類、名物海鹽

旅館　山城屋、奥西屋、白木屋、大和屋（以上香住）、三輪屋（二日市）

■鎧驛

福知山より六十哩二分

兵庫縣但馬國城崎郡餘部村の內鎧村に在り、當村は戸數約三十五人口凡百八十を有し海に濱する山峽の一漁村に



鎧村落

して、古來山海兩路の交通頗る繁雜なりしを以て隣里との往訪すら甚だ稀なりしも、今次鐵路の開通は能く都人士をして千仞の斷崖下に北海萬里の狂瀾澎湃として押寄せ、飛沫雪花と煙るの壯觀に接するを得せしむ

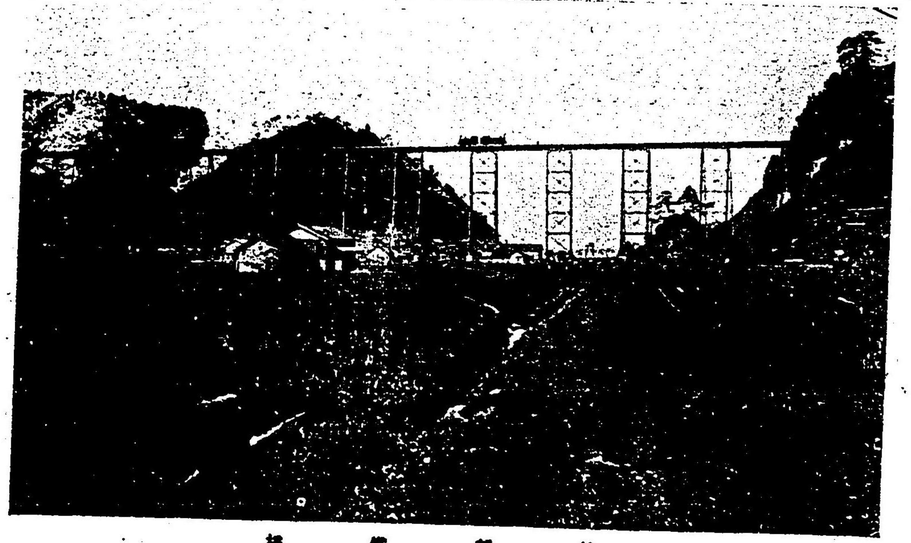
◎平家の末裔　壽永の昔平家の一類壇の浦より遁れ來りて隱棲し、其子孫今尙當村及隣村御崎村に存すと傳へ云ふ、宜なる哉風習自から他村と異り醇朴愛すべきものあり、好古者の一遊に値す

◎　姫　鳶

矢文得て再評定や秋の風

◎餘部鐵橋　は當驛より西約一哩隧道を濟りたる所に在り卽ち餘部村の東西に峙つ辨天、荒神兩山の谿間に架する本邦嚆矢のトレッスル式鐵橋にして長さ千十五呎高さ百二十五呎、所要の鋼材九百四十二噸綴鋲數六萬八千餘本、總經費三十三萬餘圓を要したる珍形の鐵道橋梁なり

物産　鮮魚其他海産物



餘部鐵橋

■久谷驛

福知山より六十四哩二分

兵庫縣但馬國美方郡大庭村の內久谷村に在り、當村は戶數約六十人口凡三百を有する山間の一村落なり

◎桃觀峠　は驛の東北に聳ゆる高嶺にして、其山腹には但馬より因幡に到る道路崎嶇半腸たり、故に俗に（モ、ウヅキ）と稱す蓋し一度此峠を越ゆれば股の痛み甚だしとの意味なり

茲に隧道あり長さ六千餘尺由陰第一の長洞道にして、其兩口には前總裁後藤男爵の揮毫に成れる（德惟罔少）（萬方惟慶）の二大額面を掲ぐ

物産　海類

鐵海岸と御崎桑

■濱坂驛

福知山より六十八哩

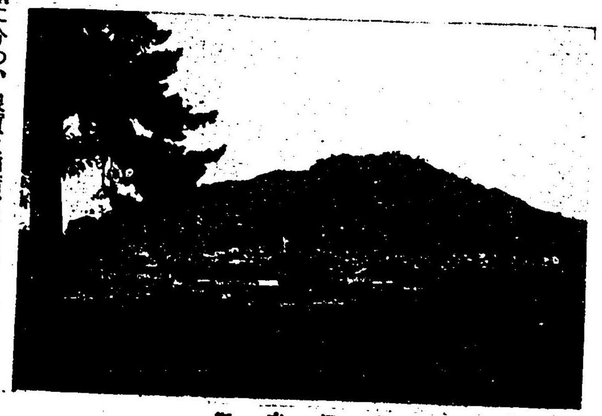
兵庫縣但馬國美方郡濱坂町の內濱阪村に在り、當町は八ケの小村より成り、濱坂村は郡の名區にして東西四丁南北七丁、戶數九百人口約四千七百を有し、濱坂灣に面して海陸の交通頗る頻繁なり

靈の巢岩

○宇都野神社　は驛より四丁濱坂村に在り、土俗川下神社と云ひ天明元年の創建なり、祭神は素盞嗚尊外二座にして初め牛頭天皇社と稱せり、社域廣濶樹木鬱茂して俗塵を遮り神威自から嚴かなるを覺へしむ、祭典は毎年六月二十八日に執行し遠近より參詣する者甚だ多し

○楞嚴寺　は驛より約三十五丁本郡田井村字松尾谷に在り、臨濟宗に屬し延文五年南溟禪師の開基に係り、本尊には釋迦牟尼佛を安置す、そのかみ當寺は皇室の御崇信深く又武將等の信仰淺からざりしを以て、塔頭末寺三十餘院を有し法燈灼然たりしも惜哉天正年間相應峰寺と共に兵燹の厄に罹れり、現今の堂宇は天保十三年の再建にして寺寶には後小松帝編旨、足利義政教書、弘法大師筆不動明王、惠心僧都筆地藏菩薩其他數十點を藏す

○相應峰寺　は驛より約三十丁本郡清富村字觀音山の頂上に在り、天台宗にして天平九年行基菩薩の開基に係り初め九品山極樂寺と號せしが、齊衡三年慈覺大師の高足作善上人來つて堂塔伽藍を建立し寺號を改めたり、其當時結構の壯麗なる近國に冠たりしが、天正年間兵火の爲めに全山十二坊盡く烏有に歸したり現下國寶となれる本尊十一面觀世音は當國矢城海中の觀音島より出現せし無二の靈像なりと傳ふ



濱坂市街

○湯村温泉　は驛より約二里十四丁本郡温泉村の内湯村に在り、元と湯河原と稱し泉源は村中の一岩礁より涌出し之を導きて六槽に分つ、泉質は鹽類泉にして無色透明諸病に特効あり、又附近を流るゝ春木川の河中に絶へず熱泉を噴出し、烟霧蒸騰して四邊咫尺を辨せず、其狀頗る壯觀なり、士人此泉にて蒟蒻を製し麻苧を淘す、温泉宿數軒在り四時浴客を以て滿さる

居組驛

鷲知山より七十一哩九分

旅館　鯛屋、みじん、北島屋(以上濱坂)富屋、井筒屋、近江屋、柳屋(以上湯村)

料理店　米澤、山海樓、西川樓、床秀樓(以上濱坂)

物産　鮮魚、薪炭、木材、名物濱坂針

雪の白濱

兵庫縣但馬國美方郡西濱村の内居組村に在り、當村は東西四丁南北僅に二丁戸數約二百六十人口凡千三百五十を有し、停車場は但馬國の最西端に位し、鐵路を是れより因幡に入る

○雪の白濱　は驛より約七丁居組村一帶の海濱を云ふ、銀沙の如き曲浦は西方九山岬に盡き、近く大振島及び二三の青螺碁布し風色甚だ佳なり、昔つて丹後田邊(舞鶴)城主細川幽齋此地に遊び、夕陽白砂に映じて釋波金蛇を走らし美觀錦繡に劣らじとて錦の浦と名命せり、又此地に龍雲寺と云へる禪宗の寺院在り、鳥取城主池田氏維新の際同地より移建せるものにて、殿堂の楹柱欄盡く櫻樹を使用せりとて名高し

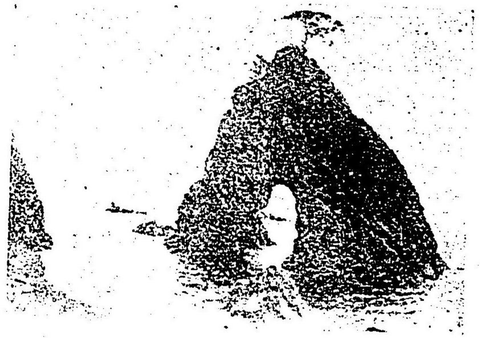
○細川幽齋主從も旅にしあれば里の名も居組にしたる假の宿かな

物産　鮮魚其他海産物名物鰯

山陰美驛

鍋知山より七十六哩七分

鳥取縣因幡國岩美郡浦富村に在り、當村は縣下有數の名邑にして古名を浦住と稱し、彼の山陰の麒麟兒山中鹿之助當國に來りし際、先づ此地の桐山城を攻落し後近郷を略したりと云ふ今戸數四百八十人口二千七百餘を有し浦富港を控へたれば漁船の來往自由にして海陸の交通甚だ便なり



千貫松

○浦富海岸　浦富港以西の海岸約二哩の間は風光恰も陸の松島に似て、而も豪壯彼れに勝る、長鯨の吼ゆるが如き觀音島、一簇の黄雲靉靆たる栗種島、巨象の鼻を屈ぐるが如き門島、又因幡侯が我庭園に移すものには祿千貫を與へんと云ひし矮松を頂ける千貫松島、其他無數の小島北海萬古の碧潮に泛びて千態萬狀、白鷗常に群飛して壯觀云ふ可からず

○杜宇

秋海や島朗らかに帆二つ

○海水浴場　は驛より二十四丁浦富灣の一隅に在り、西方宮島の岬角突出し向島東北へ列りて一小澳を成し、自然に大海の波を防ぐ、故に婦女兒迄雖も游浴に些の危險あるなし、浴後棚に倚て胸襟を披けば海風肌を襲ふて爽快極りなし

網代港

○金峰神社　は驛より約一里牧谷村權現山に在り、和州金峰山の分靈にして天之水分神、國之分神外四神を奉祀す、文治年間には源頼朝文和年間には山名氏清共に治世の祈願をなし社領若干を寄進せり、殊に山名氏は三十二院の僧坊を建立し壯麗近國に其比を見ざりしがいつの頃よりか荒廢して今は唯其礎石を殘すのみ、境域は老樹蒼蒼として北海に臨み朝暉夕陰の景趣甚だ壯美也

○岩井温泉　は當郡岩井村に在り驛より約一里人車通ず、地は因但兩國の街道に衝るを以て人馬の往來頻繁を極め、蒲生川の清流潺々として其中間を貫き風景愛すべし、温泉の發見年代を詳かならざるも清和天皇の御宇宇治の長者藤原冬久初めて浴槽を設けし事鑛泉誌にみへたり、其後元弘三年平高時の兵火に罹り浴場廢絶せしを、池田光仲當國の大守たるに及び之を再興して今日に在らしむると傳ふ、泉質は鹽類

門島

小羽尾海岸

泉にして醫治効用は痔癤、溜飲皮膚病等に好し、温泉宿は數軒在りと孰れも客室清潔、浴四時客絶ゆる事なし

○ 活牛

温泉の村の淺き庇や春の雪

○網代港（あじろ） は驛より約一里本庄川の下流網代村の港灣を云ふ、當村は戸數三百人口一千三百餘を有する漁村に過ぎずと雖も、日本海に臨み港内水深く、殊に近時修港成り汽船の寄航多ければ漸次發展せんとするの趨勢あり

物産　生絲、鮮魚、干魚、藁表、柳行李、蘚種

旅館　觀海樓、清風館、太屋、杉村、自由亭（以上浦富）木島屋、明石屋、岩井屋、岩美屋、駒屋備前屋、花屋（以上岩井）

塩見驛

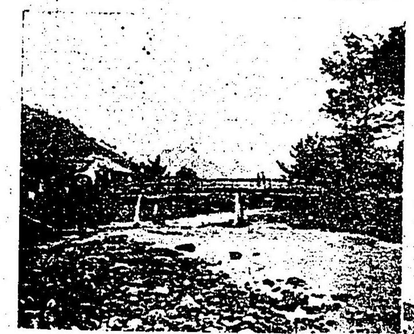
鳥取縣　知山より八十一哩二分

鳥取縣因幡國岩美郡元鹽見村に在り、往古此地は鹽見谷と稱し鹽見氏なる豪族住みたり村は東西十三丁南北四丁、戸數二百二十人口約千百を有す

○善光院 は驛より十四丁當郡細川村に在り、無量山と號し白鳳年間榮照上人の開基に係り、本尊は信州善光寺の如來と同體軀にして閻浮擅金なりと云ふ、毎年春秋二季の彼岸會には參者踵を接す

流蔭

極樂にみな行く廟の彼岸かな



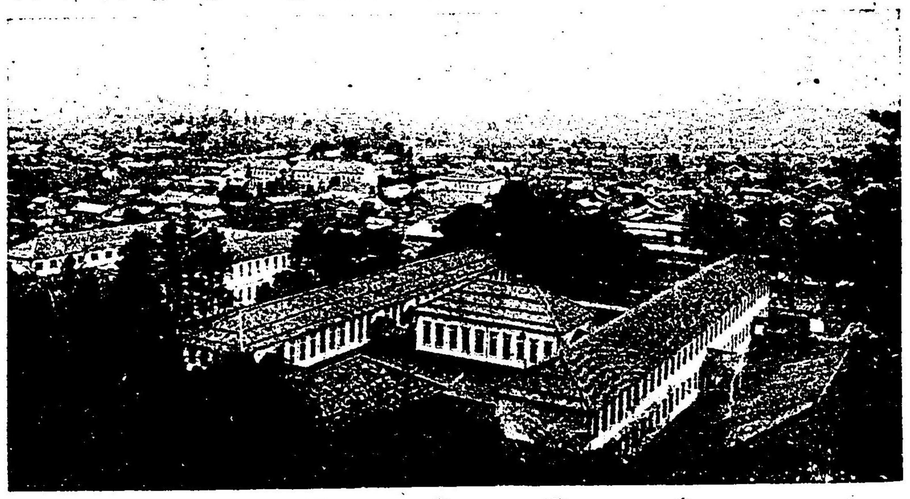
岩井温泉

鳥取驛

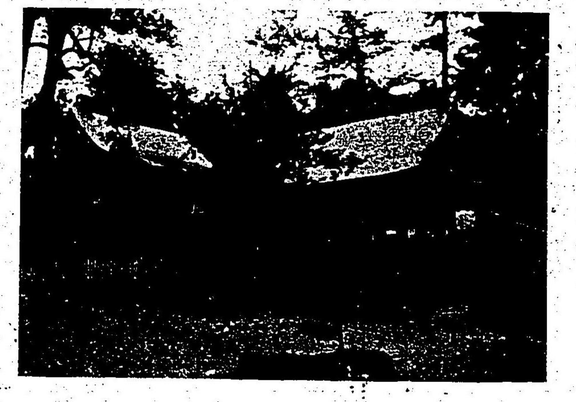
鳥取縣　知山より八十八哩一分

鳥取縣因幡國鳥取市の南端に在り、當市は因伯二州を管治する鳥取縣廳の所在地にして、因府又は鳥府と稱し舊池田伯耆守三十二萬五千石の治府なるを以て、街衢井然戸數凡六千人口三萬四千を有し、伯耆の米子出雲の松江と並びて山陰道の大都會なり、地勢は袋川市街の西北を環流して千代川に合し賀露港に至りて日本海に注ぐ、舊城址久松山は市の東北に峙ち坐ろに天正の昔を偲ばしむ鐵路開通以來海陸運輸の便大に開け商工の業漸次隆盛ならんとす

○鳥取城址 は驛より約十五丁久松山に在り、天文十四年山名左馬助誠通其臣武田高信をして築かしめたる名城にして、其後山名豐國に至り毛利氏に屬す、豐國又豐臣氏の威を望んで款を秀吉に通せんとす、長臣森下中村等聽かず豐國遂に奔りて秀吉に投す、茲に於て森下中村の二將相議して毛利氏に請ふて吉川經家を迎へ假に主將となす、偶々秀吉織田氏の命を受けて當城征伐に來る、城固くして落ちざりしが終ひに糧食盡き勢ひ究りて經家以下城を枕に討死せり、時は天正九年六月なりき、仍て宮部善祥坊之れに代り其子治部少輔に至り關ヶ原の役に與り石田三成と共に敗滅す、慶長六



鳥取市街



宇部神社

年池田長吉當國に封せられ在城十七年其子長幸備中に移封せられしを以て、元和三年池田新太郎光政播磨より入りて此地を領せしも、光政備前に移るに及び從弟光仲入部し子孫繼承して主政革新に至れり、今城樓なしと雖も天主閣の基礎及び外堀等存す、又城址に東郷海軍大將の命名せる仁風閣なる建物在り舊居御殿の跡なるを以て居邸とも云ふ

○ 田中長州

天寒兵氣轉應揚　戰後雖林盡裏創
中國男兒有奇膽　孤城二月抱猿鄕

○桜谷神社（さくらたにじんじゃ）は驛より約十六丁市内上町に在り、慶安三年池田光仲の創建にして、初め東照宮と稱し德川家康のみを祀りしが、維新後舊藩主池田忠繼、同忠雄、同光仲、同慶德の靈を合祀し桜谷神社と改稱し社格を縣社に列せり、境域の四面は老樹巨木

桜谷神社

鬱蒼として本殿、幣殿、拜殿、舞樂殿、隨神門、中門等の社殿を圍み、谿水滾々社前を流れて眞に幽谷深山に入るの思ひあらしむ、社寶には尊純法親王筆東照宮の額、三十六歌仙彩色額、狩野信守筆鷹の額、宗近作古劍一口其他甲冑等枚擧に遑あらず、就中神殿額面の後に在る白鷹の彫刻欄間は、名工左甚五郎の作と稱し、此鷹常に八方を睨むを以て、古來境内に小鳥の影を見ずと傳ふ、大祭は五月卅一日及び六月一日に執行し別に春秋二季に祭典を行ふ、又當社の入口に招魂社在り、神殿には維新以來國難に殉したる勇士の靈を祀る

○宇倍神社　は因幡國岩美郡國府村宇宮の下即ち稲葉山の麓に在り、驛より約一里九丁、大化四年の勅請にして武内宿禰を祀り今國幣中社に列す、因幡風土記に、仁德帝五十五年春三月御歳六十當國に御下向、龜金に雙履殘れり、御隱所知れず云々とみへたり、今尙ほ本社の後丘を金龜山と呼び雙履の在りし所に一基の碑存す、社殿は本殿、拜殿、幣殿、神饌所、神樂殿、中門等斷續として相連り別に摂社末社在り、本社の結構殊に清麗なり、又當社の東北に登ゆる一帶の山脈は、彼の歌枕に名高き稲葉山にして、山容温雅、其山麓の國分村は行在原平が當國主たりし時其官邸を構へたる所なりと

波邊數馬の墓

荒木又右衛門の墓

在原行平

立別れ稲葉の山の峰に生ふる
松としきかば今歸りこむ

藤原定家

忘れなん松と名づけそ中々に
稲葉の山の峰の秋風

○波邊數馬の墓　は驛より約十五丁市内栗谷町興禪寺境内に在り、數馬は院本に靜馬と稱し舊因幡藩士波邊勘九丁、當國岩美郡富桑村に在り、鄕社なれども鳥取市外最も繁華と稱せらるゝ二十七ケ町村の氏神にして彦火瓊々杵尊外二神を合祀す現在の社殿は寶永七年の造營にして結構壯麗を極む、祭典は毎年五

摩尼寺

たる英傑なり、碑面に（秀行舉忘禪定門、寛永十五年八月廿五日歿）と刻す、時に春秋四十一、其武勇は今尚世人の激賞して措ざる所也、近年墓地清掃に際し又右衛門の長女萬子及び五男三十郎の墓石を發見せりと

◎安德天皇御陵墓　は驛より約二里當國岩美郡御陵村字岡益に在り、帝は壽永の昔平家の擁戴する所となり、二位尼と共に御裳川の波に沈みて崩御在しませしとの事は、成な人の知る所なれど一説には二位尼と共に壇の浦より山路を越へ長門の仙崎浦に到り、一葉の漁船に召して當國賀露の港に御着船の上、此邊りに忍ばせ給ひ聖運回復の機を俟せ給ふ中、病に罹りて崩御在らせられたり、仍て村民茲に葬り奉りしと云ふ、信偽今俄に斷ず

岡益御陵

負の長子にして、其姉婿荒木又右衛門の扶を得て、父の仇敵河合又五郎を伊賀上野城下鍵屋の辻に於て討取り、美名を後世に遺したる孝子なり

◎荒木又右衛門の墓　は驛より約十七丁市内新品治町玄忠寺の境内に在り、又右衛門吉村は伊賀國阿拜郡荒木村の人にして初め鎗術を南都實藏院に就て學び、後柳生重兵衛光吉に師事して柳生流劍法の奥儀を極め、當時勇武絶倫殆んど匹儔すべきものなし、寛永十一年十一月伊賀國上野城下に於て妻の弟渡邊數馬を扶け、敵河合又五郎の一黨數十人を引受け、奮鬪激戰終に之を屠にし、義勇の名を天下に轟かし

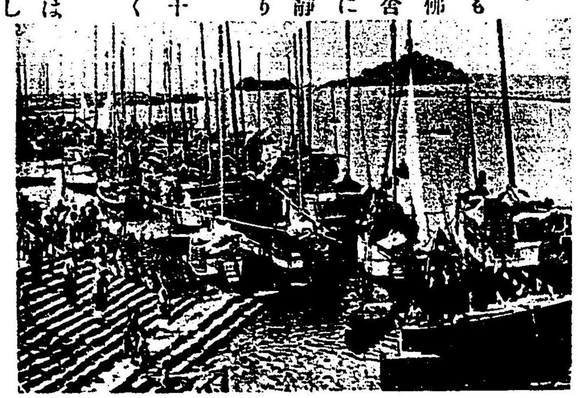
可からずと雖も當時に遡れば又考ふ可き也、附近に二位の石船と稱するものあり、這は二位尼を葬りたる古墳なりと傳ふ

◎摩尼寺　は驛より一里十丁當國岩美郡中ノ郷村摩尼山頂に在り、天臺宗にして喜見山と號し本尊には帝釋天の尊像を安置す、抑も當寺は仁明天皇の天長年中慈覺大師山陰に遊錫して此山に登り佛法弘通の勝地なるを認め、岩角を穿ち堂塔を建立せり、爾來堂舍其數を增し頗る輪奐の美を極めしが、天正八年豐臣秀吉の兵火に罹り舊觀を失ひたりしも後年今の諸堂宇を再建せり、境内幽雅靜寂、能く渺茫たる北海を瞰下し眺望廣濶誠に因州第一の靈場なり毎歲夏時三日間會式を執行し參者幾萬なるを知らずと云ふ

◎吉方温泉　は驛より約十二町當市の一端吉方村に在り、明治三十七年の交發見せられたる新泉にして、鳥取市人の來り遊ぶ者多く隱治効用は皮疹、呼吸器病等に頗る宜し

◎八頭の杉林　驛より約八里當國八頭郡智頭及若櫻附近一帶の地は老杉蔚々天を蔽ふて繁茂し、斯界の人をして垂涎措く能はざらしむるものあり、聞く近時縣廳殖林の指導に努め、民間又之れが改良に汲々とし、今や其産額實に縣下第一の多きに上ると云ふ

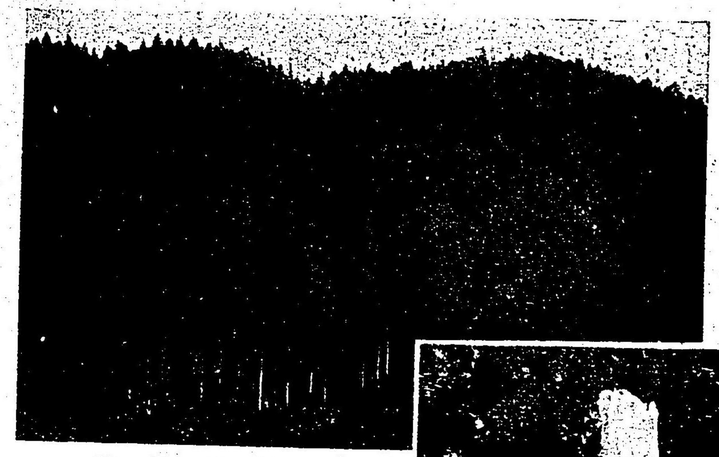
◎雨瀧、布引瀧、宮瀧　は郡中の三瀑布として知られ就中雨瀧を以て其最とす、雨瀧は驛より約五里當國岩美郡大茅村に在りて、奔下十三丈幅約六尺、水尾岩角に觸れて白沫四散し近けば衣襟爲めに潤ふを以て此名あり、附近又布引宮の二瀑在り水聲琴々潭底を撲て玉と碎け花と散る、殊に降霜の季に至れば瀑畔樹々の梢春花勝りて錦繡を飾る樣、壯美とや云はん



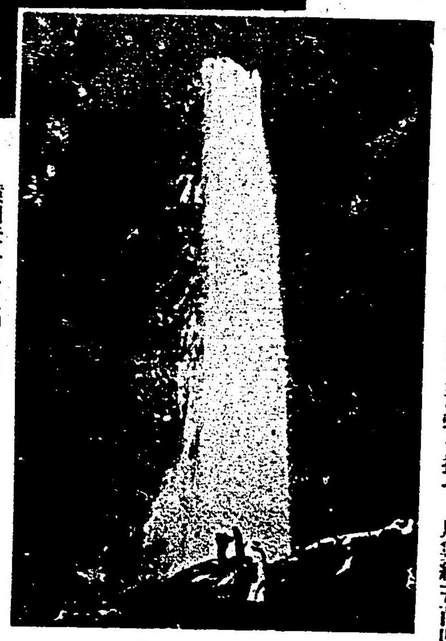
賀露港

五騎六騎たる谷川渡る紅葉かな　勺水

◎賀露港　は驛より約一里卅丁千代川の海に注ぐ所、三百餘間の突堤を廻らし風濤を防ぐ、此地古來因州に出入する旅客貨物を吞吐する唯一の關門にして、前に鳥ヶ島、宮ノ島の二岩礁を控へ、戸數約五百四十人口三千餘を有し村民は多く漁業船乘を事とし、名産には鰈、鰯、蟹、鰯等あり、又當港聚首山の頂きに賀露神社在り、縣社にして祭神は大山祇命



八頭の杉林



流雨

を控へ、東西三十町南北二十丁、戸數約三百餘人口凡二千を有し、村民は多く漁業に從事せり

猿田彦命外二神を祀る、境内は賀露港を下瞰し又遠く北海烟波の浩渺たるを望み風光愛すべし

物産　鰈、生絲、白珊瑚、海松バイフ、其他海産物

旅館　小錢屋、湖山屋、米清、吉成屋、新田、若木屋、松栄館、千田屋、吉成屋、山添、中忠（以下料理店兼業）鳥取温泉、金加温泉、高砂温泉、三階樓

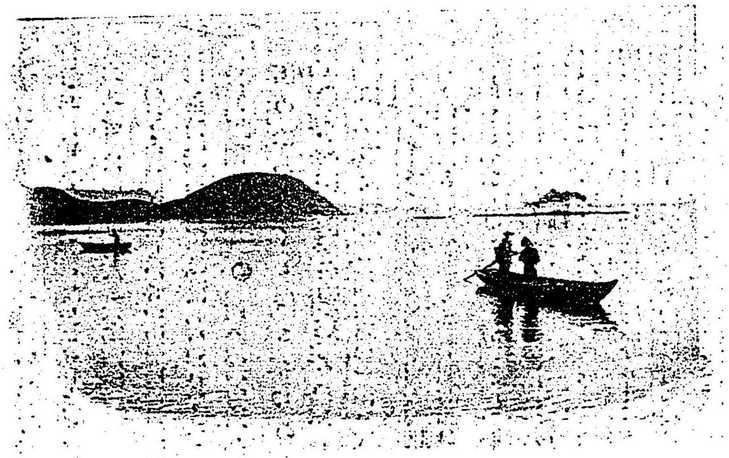
料理店　花月亭、偕老亭、瀧清、丹廣、八百竹

湖山驛

福知山より九十哩八分

鳥取縣因幡國氣高郡湖山村に在り、當村は西南に湖山池

◎湖山池　は驛より約十丁本郡湖山村の南に在り、一に震湖と云ふ周圍約三里廿餘丁、深一尋乃至三尋池中に浦島團子島粒島等の小島點在し、西南には丘陵起伏して波狀を成し東北には田圃連りて風色甚だ佳なり、傳曰ふ往古此邊は一帶に肥沃の耕地なりしが、其地主たる湖山の長者頗る驕奢にして人を苛役すること牛馬犬豚の如し、或年數町の挿秧を一日に終へよと迫りしに天割立どころに至り、豪雨連日洪水出でゝ萬頃の良田悉く此の沼澤に化せりと、又湖西布施村に布施城址あり昔宗家勝豊の據りし所なりと云ふも、今分明ならず



湖山池

◎吉岡温泉　驛より約二里本郡吉岡村大字吉岡に在り、泉質は鹽類泉と硫黄泉とにして上の湯、下の湯に分る里人傳ふらく昔天暦年間此地の豪族神部氏の愛女、惡瘡に罹りて醫藥に効なし、即ち本郡貳瀧村の藥師如來に祈願すること一七日、其滿願の日如來の靈夢を得て之を發見し、沐浴數日ならざるに瘡全く癒ゆるを得たり、其後永祿年間吉岡將監此地を領せしを以て吉岡湯村と稱し浴槽を設けしかば遂に今日の繁盛を見るに至れり、泉の醫治効用はレウマチス、梅毒、神經諸症、婦人の諸病、貧血病等に宜し、而して温泉宿は孰れも肉湯を設け諸事輕便を主とせるを以て四時浴客絶へず

草花の一と筋道や湯元まで　子規

物産　牡丹蠣、蟹、鰈、鰯、鰻、餅、名物、湖山鰻、吉岡鰻鱺細工

旅館　渡邊屋、山田屋（以上賀露村）清遠樓、油屋、麹屋、東洋館、中島屋、柊屋、田中屋（以上吉岡村）

料理店　翠松亭（吉岡村）

■ 賓本驛　福知山より九十七哩一分

鳥取縣因幡國氣高郡賓本村大字賓本宿に在り、西に河内川を控へ東は酒の津の村落に接し、戸數約二百九十餘人口凡千七百を有す

◎白兎神社　は驛より約一里十丁本郡末恒村大字内海に在り、菟宮と稱し祭神は白兎大明神にして別に豐玉姫命、保食神を合祀す、祭典は毎年五月之れを執行し、疫病安全の神なりとて崇著甚だ多し

◎酒津海水浴　は驛より約八丁本郡酒津村の海濱なり、此地元穉谷と稱せしが、龜井氏此地を領するに及び、海邊に谷てふ名ふさはしからず迚、樽に因みて酒の津と改めたりと、知らず、寄せては返す波の音は眠げに吹き來る風は遠來の客を醉はしめんとす

◎

酒の津や行くも歸るも月の入　指月

物産　盤表、穀類、鰡、名物大根

旅館　勝部屋、本部屋

■ 濱村驛　福知山より九十八哩九分

鳥取縣因幡國氣高郡正條村大字勝見に在り、濱村温泉場に隣接するを以て驛名に冠す、濱村は東西七丁南北一丁、戸數百餘人口凡五百七十に過ぎざるも温泉あるを以て稍賑ふ

◎濱村温泉　驛より約二丁本郡濱村に在り明治十七年の交新道開設の際、里人鈴木某の發見に係る無色透明の鹽類泉にして、醫治効用は神經痛、レウマチス、貧血病、胃弱及婦人の諸病に適すと云ふ

◎勝見温泉　驛より約十三丁本郡勝見村に在る硫黄泉にして、往昔鹿野城主龜井茲矩の臣宍戸興後此地に獵し白鷺を射て之れを傷く、其後彼の鷺附近の澤中に下り立ちて去らず、怪んで檢すれば涌泉あり故に初め鷺の湯と稱せり、効驗は皮膚病に適す

◎幸盛寺　は驛より約一里十八丁本郡鹿野町に在り、寶德年中澄譽惠教和尚の開山に係る古刹にして、始め門

照山持西寺と稱せしが天正年間龜井茲矩此地に封せらるゝや、尼子家の勇士山中鹿之助幸盛の菩提所と定め今の寺號に改めたり、本尊は佛師運慶湛慶の合作に成れる阿彌陀如來にて彫工凡ならず

◎鹿野古城址　は鹿野町の南に聳ゆる鷲峰の山麓に在り、往古豪族鹿野氏代々の居城なりしが、天文十三年尼子氏に攻められて落城し、後山名氏居らしも天正年間龜井氏の有となれり、此の虎擲龍拏の地も今や空しく荊棘にとざゝれて、興亡の跡夢よりも淡し

◎山中幸盛の墓　鹿野町幸盛寺の境内に在り、幸盛は鹿之助と稱し文武の道に秀で若冠にして尼子家の執權となり、山陰の麒麟兒として將た尼子十勇士の首領として名聲當時の群雄を壓せり、然るに天正六年七月二日備中國阿部の渡に於て、浮田の大軍と戰ひ利あらず、天運窮りて終に討死せり、時に年齡三十有四、彼れの女婿龜井茲矩其遺髮を得て此地に葬る、墓は方一間三尺高さ四尺の石壇の上に、丈け五尺許の無縫塔を安じ、臺石に（爲幸盛殿淋淨了居士）と刻し其右方に（干時慶長十三年二月廿五日）左に（沙門城運社照上人建立）とあり、噫正に是れ人間の榮枯は黍一炊、泣くも笑ふも夢の又夢ならずや、尚當寺の境内に日野五郎之房の墓碑あり、彼れは秋宅庵之助と稱し尼子十勇士の一人なりし

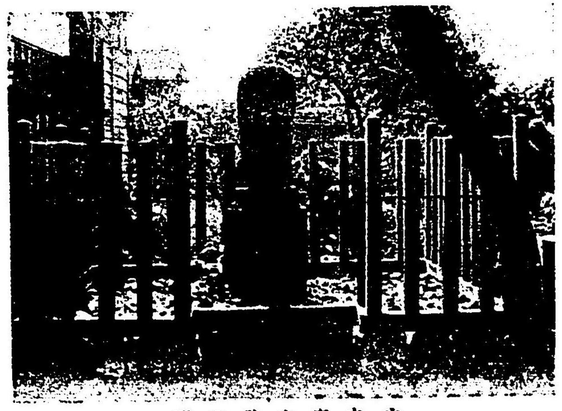
◎　賴山陽

存し孤杵白何忘趙　乞救包胥暫託秦
獄獄驍名誰喚鹿　虎狼世界見麒麟

物産　穀類、鰡、生糸、木材、甘藷、和紙、名物　竹細工

旅館　烟草屋、鈴木、角屋（以上濱村）　日光屋、鰐屋（以上鹿野町）

料理店　氣高樓（同上）



山中鹿之助の墓

青谷驛

福知山より百〇五哩九分

鳥取縣因幡國氣高郡青谷村に在り、當村は東西一里十五丁南北十五丁、戸數約六百人口凡三千五百餘を有し、停車場は因幡國に於ける最西端の驛なり

◎八葉寺　は驛より約一里半、岩洞の奇景あり、岩の長さ五六十間、横十五間竪十八尋許り山に依つて高峙つ、其岩根に約四十間餘の空洞あり一見岩屋の如し、此の窟内に熊野大權現を奉祀す、附近の勝景世間稀れに見る所なりとす

◎長尾山下の風色　青谷村を出でゝ鳥取街道長尾山にかゝる道路の左方は、蒼潮滿々として際涯なき北海に其山脚を浸し、一帶に奇巖虹霓屏障の如く列峙し、長風怒濤を巖角峭壁の間に寄せて、飛沫千丈、或は花の如く雪の如く又は瀧津瀨と漲りて千態萬狀、一見肌骨寒し蓋し山陰に非ざれば見る可からざる壯美の風色なり

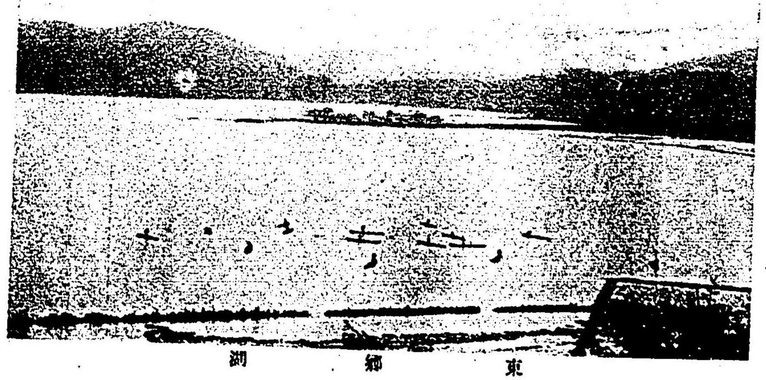
◎　廣　足

荒海を四方にめぐらす日の本は
神のかためし御國なりけり

◎青谷古城址　今其古城址は尋ぬるに由なしと雖も、明德記に、山名滿幸因幡國青屋の城と云ふ所へ、士從廿三騎にて落付給ひげるとや、やがて茲にて遁世し給ひて、上下五人引伴れて筑紫方へと聞しが、行方知らずなりにけり、と見ゆ、察する往古此地に關塞などありしならん

物産　鮮魚、海産物、名物　雲丹

旅館　久米屋、竹島屋



東郷湖

泊驛

福知山より百〇五哩九分

鳥取縣伯耆國東伯郡泊村に在り、當村は西東七町、南北一里、戸數約二百六十人口凡千五百二十を有し、因伯兩國の境界にして伯州最初の停車場なりとす

◎泊海岸　は宛然奥州松島の一角を望むの觀あり、前に日本海の蒼波漫々として漂ひ、山脚左右より突出して細波溶々たる一小灣を抱す、銀の如き白沙に村娘遊び、岸頭に連る青松に不斷の琴音を聽き、朝暉夕陰の景頗る佳絶なるものあり、左れば夏季都門の炎塵を避くるに適す

◎　勺　水

暑を洗ふべしや泊の夏の月

物産　鮮魚、海藻類

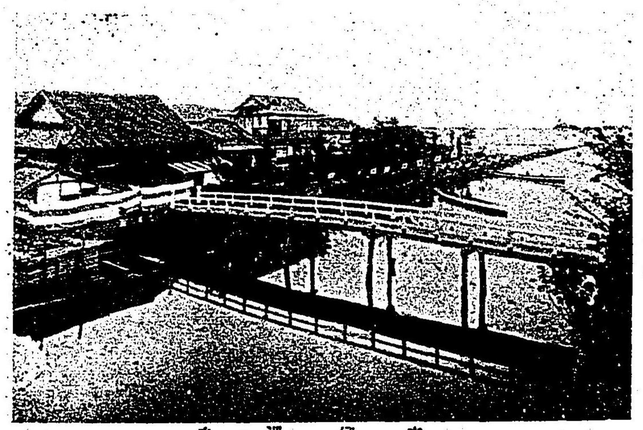
旅館　備前屋（料理店兼業）

松崎驛

福知山より百〇九哩五分

鳥取縣伯耆國東伯郡東郷村に在り、東郷湖畔の名邑松崎に接近するを以て之を驛名とす、松崎村は古へ山名氏治所を置きたる所にして今戸數凡百六十五人口約九百餘を有す

◎東郷湖　は驛の前面に在りて東西二十丁南北二十五丁周圍約三里、一に鶴の海と稱す、伯州第一の大湖にして東郷、松崎舍人、花見、淺津等の十餘箇村は其四方圍み、西北の一口流れて橋津川となり橋津村に至りて海に注ぐ、美德、鉢伏、羽衣石、馬の山等の諸山は東西南に聳へて倒に影を湖面に蘸し水光淪漣として風明光媚なり、故に釣る網べくすべく又暑を避くるに好し、殊に岸を距る六十間の湖底より湧澄なる温泉



東郷温泉

涌出するは實に奇觀と云ふ可し、湖中淡水魚類を産す

○東郷温泉　驛より約五丁湖畔の一端に在り、浴舍の著名なるを養生館と稱し清洒なる浴室大小十數個を備ふ泉質は鹽類泉にして酸化水臭の微臭を放ち、泉量豐富竹管を以て湖底より導く、浴後欄に凭れば岸草汀花前に迎へ後を擁し、朝霏夕霏の景轉た人をして詩興を催さしむ

○　秋月・天放

環水群山綠若流　此中安得泛仙舟
尤思湯島月明夜　不遜中禪湖上秋

○淺津温泉　は驛より湖上十八丁渡船の便あり、地は東郷湖の西岸上淺津村にして明治三十五年の發見に係り、開設日尚淺きも諸病に特効ありとて浴客常に絶へず、旅館には旭館、東郷館あり

○倭文神社　は驛より約二十五丁本郡舍人村大字宮内に在り、倭文大明神と稱し延喜式内の古社にして今縣社に列せらる、祭神は事代主命、健御名方命外三神を合祀し、社殿宏壯境内には古樹亭々蔭を爲し、東に御冠山を負ひ西に東郷湖を擁し風致頗る佳なり、毎年五月一日に大祭を執行す

○羽衣石城址　は驛より約一里本郡花見村羽衣石山頂に在り、羽衣石は又種石と作り南條元續の居城なり、民談記に南條は黐谷高貞の二男伯耆守貞宗を始祖とすとあり、天正年間廢城となり今舊形の見るべきものなし、此の山上に一の巨石在り往古天女天降りて此石上に羽衣を晒したりと傳ふ故に此名あり、

倉吉町

○藤津の桃山　は驛より約十丁東郷湖の東岸藤津村に在り、晩春の候に至れば滿山簇々たる彩霞丹雲に掩はれ宛かも武陵挑源を想見じて身の塵世に在るを忘れしむ、故に花時近郷より來り遊ぶもの甚だ多し

○　桃咲くや東家に嫁く西家の女　雨樓

金剛一藏王

名物　鰻、蜆

旅館　伊藤、養生館（料理店兼業）

倉吉驛

福知山より百十二哩九分

鳥取縣伯耆國東伯郡目下村に在り、地は當國第二の都會と稱する倉吉町を距る約一里故に之れを驛名とす、同町は天正中南條元清の居城にて後に鳥取藩主池田氏の支城となり、老臣荒尾志摩守城代として此所に住めり、廣袤東西三十丁南北十丁、戶數凡二千〇五十人口約八千三百を有し、市街繁盛にして商業又見るべきものあり

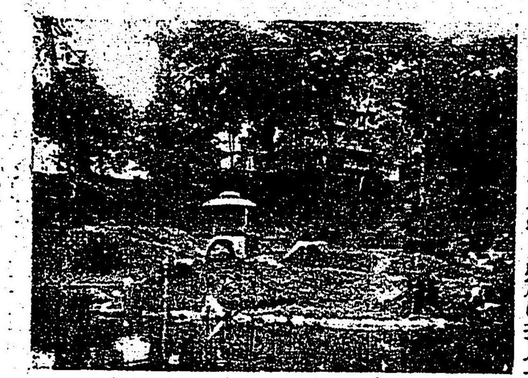
○打吹公園　は倉吉町の中央鉢伏山に在り、這は池田氏支城の舊址にして、明治四十年皇太子殿下山陰行啓の永世紀念として開設せり、園内老松參差として繁茂し、綠竹婆娑として之を圍み、梅櫻所々に交錯するなど實に得難き幽雅の公園なり

○長谷寺　は打吹公園の西南隅に在り、天臺宗にして養老五年法道上人の開基に係り、現在の堂宇は弘治三年南條氏の修理する所なりと云ふ、本尊には觀世音を安じ客殿

投入堂

庫裡、鐘樓、仁王門等あり、寺寶には巨勢金岡筆の繪馬其他數點を藏す

◎三德三山佛寺　は本郡門前村美德山の麓に在り、驛より約三里十八丁人力車通ず、賽路は先づ當驛より片柴村に到り、茲より三朝川に沿ふて奇岩怪石の間を縫ひ清泉淨流の邊を過ぐれば、脚下に雲生ずるの橋梁、馬蹄爲めに靑きを覺ゆる森林あり、斯くて辯谷の靈くる所に山門を見る、右折して數十級の石磴を登れば僧坊は崖に倚り峰に懸りて其兩側に連る、更に登る事數十弓、廣さ方三十間の平地に達す、此處の中央に輪奐壯麗なる堂舍を建つ是れ當山の根本堂場也、寺記を按ずるに慶雲三年役の小角入山し、巖壁の上に一個の堂殿を營み自から金剛藏王の尊像を刻して之を安す、其後嘉祥二年慈覺大師新に山腹に天臺宗の大伽藍を建立し彌陀、釋迦、大日如來の三像を安置す、今の本堂是れ也當時堂舍三十八僧坊三千寺域一萬町歩を有せしも、屢々兵燹に罹りて頹廢し今僅に四堂四ケ寺を存するのみ、奥の院の一閣を投入堂と稱す、方數間許なる大巖窟の内に建ち奇石其上を蔽ふて自から屋宇を成す、眞に外部より投入せるもの〻如し、是れ役の行者が窟外に於て組立て後之れを巖窟に投入せしものなりと傳ふ、基立ち礎定まりてより星霜經る既に千二百餘年依然舊觀を改めず、茲に掲ぐるものは即ち其堂宇と本尊金剛藏王にして、堂は保護建造物像は國寶に列せらる、境内廣濶にして幽秀靜閑、蓋し國内第一の名刹ならん



打吹公園

蟲　村

山寺に米搗くほどの月夜かな

◎三朝温泉　は驛より約二里十丁本郡三朝村に在り、無色透明の炭酸泉にして一に枕株の湯と云ふ、傳云ふ長寛年間村内古楠樹の根を穿ち白狼樹根を枕として臥すあり、之れを逐ふて檢するに果して温泉を得たりと、醫治効用は胃加答兒其他皮膚病に好し、三德山詣でを兼ね浴する者多し

◎關金温泉　は本郡矢送村字關金に在り、驛より約三里吉へ湯の關と云ふ鹽類泉と黃硫泉の二種にて一に白金湯と稱す、主治効能は

脚氣、皮膚病、痛風、生殖器病に適す

◎山田温泉　は三朝村大字山田に在り、鹽類泉にして温度百二十一度一丘岡の麓より湧々として湧出す、後に林巒を負ひ前に三朝川を控へ閑雅幽靜の温泉泉場なり、胃腸病、痛風、肥胖病に特効あり

紅　葉

川の湯や行きて憐れむ石の瘦

物産　米穀類、稻扱、生絲

旅館　岡本、牧田、東伯館(以上倉吉町)中井、中央館(以上上驛前)

料理店　風月樓、龜牛亭(以上倉吉町)

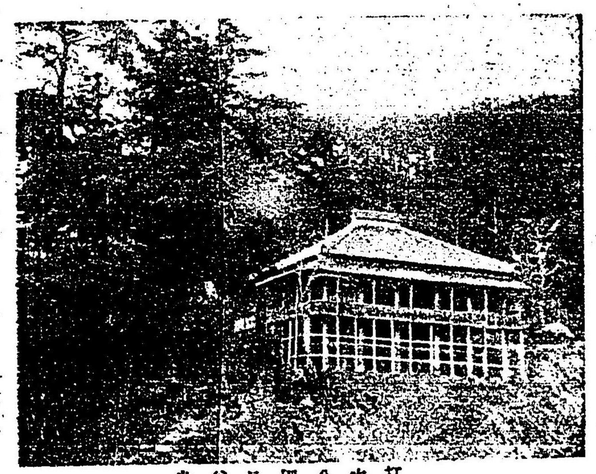
由良驛

福知山より百十九哩一分

鳥取縣伯耆國東伯郡由良村に在り、當村は東西三十二丁南北一里九丁、戶數凡五百五十餘人口約三千五百餘を有す

◎由良古城地　は今何處に在りしや尋ぬるに由なしと雖も、西安軍策に天正七年南條兄弟が逆意既に露現せしかば、吉川元春八千餘騎を率し、雲州富田を打出東伯耆八橋に着給へば、由良の城に楯籠りたる南條東市城を捨てゝ羽衣石に逃入りけり、かゝりしかば由良へは木梨中務を入れ置けり、と見たり

◎舊砲臺　は驛より約十丁由良港の東岸に在り、昔時海上防備の遺跡して尙舊形を存す



打吹公園長谷寺

○更け行けば昏さは消へて照る月の
雪になりたる濱のささご路　熊谷直好

物産　米、木材、名物　鮎、飯蛸、蛤、柿、西瓜、梨子
旅館　鹽屋、松岡

八橋驛

福知山より百二十二哩六分

鳥取縣伯耆國東伯郡八橋に在り、天正年中八橋城の在りし所にして當町は二十四丁方の廣袤を有し戶數六百人口三千餘あり

○一畑藥師　は驛より約十八丁當町觀音寺内に在り、傳云ふ雲州一畑藥師如來の夢想に依り茲に創建せしものにて眼病に靈驗ありとて寒者頗る多し

物産　米穀類、繭、饂飩、若布
旅館　中井、料理店養氣樓

赤碕驛

福知山より百二十六哩

鳥取縣伯耆國東伯郡赤碕町に在り、延喜式に清水驛と云ふは當町附近の事ならん、今戶數七百餘、人口約四千を有し海を抱き山を負ひ清洒愛すべき郷なり

○船上山　は驛より約二里二十丁大山々系中の一高峰にして本郡以西村に在り、山麓迄人車通ず、此山元弘三年南朝の忠臣名和長年が後醍醐天皇を奉じて勤王の義旗を飜し、建武中興回天の偉業を開きたる古戰場なり、海拔一

船上山

千餘尺山頂老杉古松參差し繁茂する間芝草離々たる小平地在り、是れ當時の假行在所にして土人稱して天皇屋敷とす、茲より東一里許りの處に、船上神社あり懿德天皇御宇の創建にして伊弉冊尊を祭る、登路稍々峻嶮なりと雖も我邦歷史上著名なる地なるを以て、遊杖を曳き元弘の昔を偲ぶ者多し、又當山の半腹宇山川に千丈ヶ瀧在り雄雌の二瀑布よりなり韆尋六十丈、九天の銀河倒に落下するの壯觀あり

○日就子

先達は雲に入りけり瀧の音

○軍馬育成所　は驛前五丁の所に在り、大山軍馬育成所の支部にして構内二萬餘坪屋舍二十餘棟を有し、馬匹五百餘頭を飼育するに足るの設備あり

船上神社

而も地味氣候共に馬匹に適するを以て成績甚だ好良なりと

物産　米穀類、繭、酒、水産物、名物燒鯛、鰭鱶、鰍
旅館　豐年屋、關屋(以上料理兼業)田中屋、鐵屋、美屋

百馬飲む
一水夜む牧野哉　碧梧桐

退休寺勅額門

下市驛

福知山より百三十哩

鳥取縣伯耆國西伯郡逢坂村に在り、郡の舊色下市に隣接するを以て驛名とす、逢坂村は東西一里十四丁南北二里八丁、戶數三百九十餘

柿、雲丹

御來屋驛

福知山より百三十三哩六分

鳥取縣伯耆國西伯郡光徳村に在り郡の名邑御來屋町に隣接するを以て之を驛名とす、御來屋を舌名を御厨又は淀津と云ひ美保灣の東角に位し、市街の廣袤東西三千一丁南北六丁、戸數四百六十人口約二千八百を有す。

○名和神社は驛より約十四丁御來屋町に在り、元弘の役門一族つて王事に勢れ芳名を千載に傳へたる、山陰の名族名和伯耆守長年以下四十人口約二千餘を有す

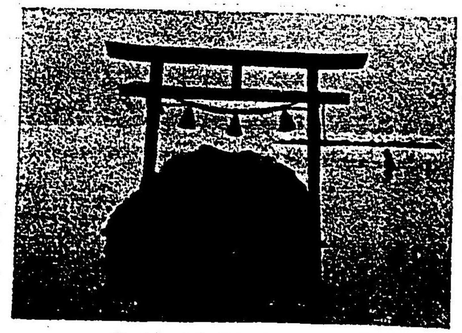
○退休寺は驛より約三十丁當國東伯郡上中山村大字退休寺に在り、正平九年笹津堺後守敦忠の本願にて草創せる實洞宗の古刹なり、彼の那下野須野原に於て殺生石を一喝の下に破碎し、世の災厄を攘ひたる玄翁和尚を開基とす、寺域廣濶本堂には釋迦如來、文殊普賢の二菩薩を安置す、由來本寺は靈驗ありとて後小松天皇の御宇勅使を差遣せられしことありしを以て今尚勅使門あり、其扁額金龍山の三文字は同天皇の御宸筆に係る、尚寺寶には唐若芬玉淵の十六羅漢を藏す。

退休寺

○ 蕪村

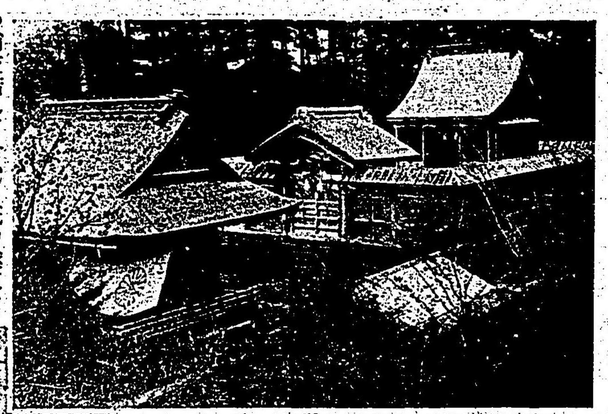
化けそうな傘貸す寺の時雨かな

物産　米穀類、鹿、材木、名物



元弘帝御腰掛岩

二名の英魂を祀りたる別格官幣社なり、社殿壯麗にして欅樹寒路の兩側に堵列し、陽春の候に至れば左枝右。



杏として煙波の間に横はり更に願みて天の一方を眺れば名和公が勤王の義旗を飜したる船上山は巍然として雲表に登り、即ち此社域一帶は公が邸第なりしが一門帝を奉じて船上山に楯籠るに方り、敵に糧餉を奪はれん事を虞れ自から倉庫に火を放ちて立去りたる所なりと、故に今尚地中を穿てば點々焦米の露はるを見る、嗚呼誰れか此土に來りて公が靈殿を拜し其古蹟を仰がば、青雲九天よりも高き名和一族門葉の忠膽義胆に悵然として懷古の涙をしぼらざるものあらんや

櫻のトンネル

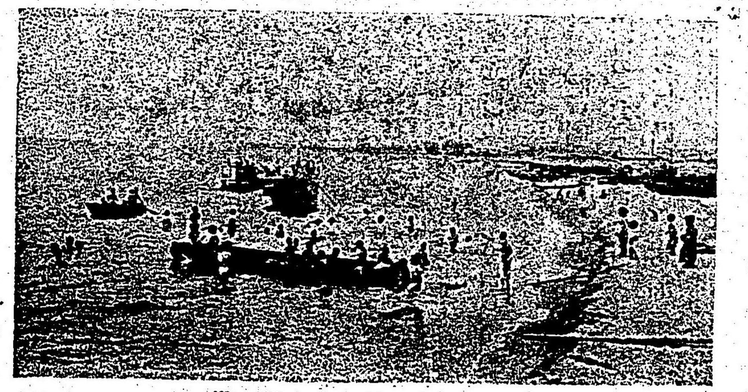
○梢交錯して恰かも花の隧道を形成す此社頭にして此名花あり威風と美觀眞に言外に絶す故に毎歲花時に至れば寒路の入口に假鐸を設け觀櫻客の便に供す又社前の一角より膨湃たる日本海を望めば、醍醐帝が蒙塵の艱苦を具に嘗め給ひたる隱岐の島影

○ 季知

碎けては玉は光りの殘るべし
思へば人は名こそ惜けれ

元弘帝御着船紀念碑

○元弘帝御着船處は驛より約七丁御

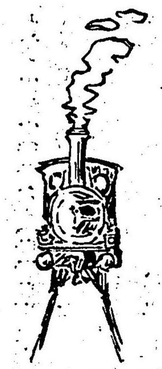


淀江海水浴場

來屋町の街頭一基の碑在る所なり、是れ元弘三年二月後醍醐天皇が隠岐判官佐々木判官清高の毒手を遁れ、一葉の孤舟に召し給ひて御着船あらせくして大阪と云ふ處につきぬこゝは荒磯にて、釣船だにもまれなり、此の處あるじと云ふ者も、都にありければ、よしあしにつけてことふべき者も無し、ともなる人ひとりふたりはなほ人もとめとて出でぬ、)茲より成田小三郎の勅使にて、名和又太郎長高(後の長年)を召させらる、時に長高帝の勅諚に奉答すらく(不思議にも斯る世に生れ合せて、十善の君に頼まれ申さんこと、生前の面目死後の名譽此上や候ふべき、君の御爲めに命を捨てんこと何にか惜しからん)と急ぎ帝を船上山に導き錦旗を飜して草賊を拉ぎ、再び大御代を開かせ奉りたる古跡なり

○御製

忘れめや寄るべも波の荒磯を
み船の上にとめし心は



古代の石馬

物産　鵜、木材、名物　燒鯛、埋木細工

旅館　後藤、門脇(料理業)

淀江驛

福知山より百三十九哩三分

鳥取縣伯耆國西伯郡淀江町に在り、町は美保灣の東南に濱し戸數約七百三十人口凡三千八百を有し米子街道の一小都邑なり

○淀江海水浴場　は當町海濱一帶にして一灣の碧波を隔てゝ遙かに美保ノ關と相對し、穏波常に銀砂を洗ひ、松籟不斷に琴音を弄し海氣磅礴として健康を養ふに足る、故に夏季浴客の來り遊ぶもの多し

○古代の石馬　は驛より約十二丁本郡宇田川村大字福岡の天神埴神社境内に在り、彫工の年代詳かならざるも石質の痕妙趣あり古色蒼然として掬すべく、一見太古の遺物たるを失はず、曩に人類學の泰斗坪井博士之を見て村民に諭する美術工藝上參考品として特に保存すべき要ある旨を示されたるより、村民相謀りて臺石を新設し俄かに推重する事とはなれり、蓋し稀代の珍品なり

物産　米穀類、生絲、鵜、傘、清酒、干瓢

旅館　石原、松岡、不老園

料理店　開嘉亭、掬翠亭

大山牛馬市

大山驛

福知山より百四十二哩

鳥取縣伯耆國西伯郡巖村字熊窯に在り、當村は東西三十一丁南北二十五丁、戸數約三百人口凡千四百餘を有す、有名なる大山登攀者は當驛に下車せらるゝを便とす

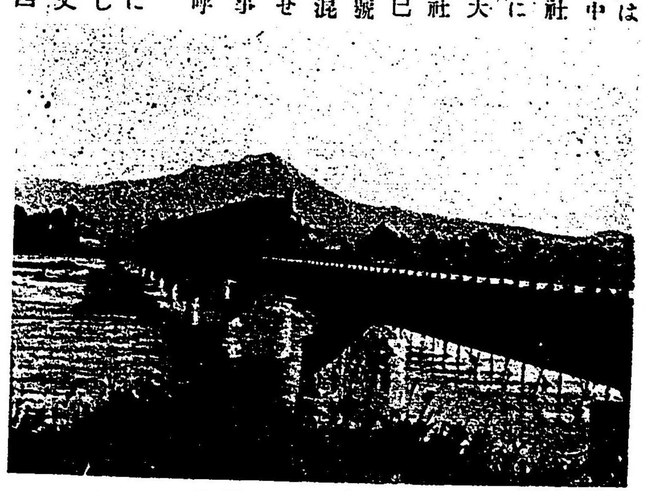
○大山　は驛より約三里十八丁當郡大山村大字大山に在り、山麓迄人車通ずるも途上峻坂多きを以て騎馬か徒歩するを宜しとす一名大神山又は角磐山と號し、伯耆富士出雲富士松江富士とも呼び海拔五千

六百五十尺、絶頂を極むれば山陰山陽近畿の二十餘州を雲烟模糊の間に望むべく近くは因伯雲三國の山川及日本海脚下に横ばり、其展望の廣濶にして而も壯大なる山陰道第一の名山と云ふも決して誣言にあらず、故に夏季登臨して仙寰の靈氣に苦熱を避くる者蹴と共に多きを加ふ

大神山神社奥宮

○大神山奥社　は大山宇劒峰の中腹に鎮す、當社は山麓尾高村に在る國幣小社大神山神社の奥社にあたるにあり大巳貴命の影像を刻みて本殿に安じ本地佛大智明大權現と號し、燈光赫灼として山陰に冠たりしが、明治初年神佛混合禁止に際し大山寺より分離して爾來大神山奥社と稱せり、參路は麓の鳥居より樹蔭細流を縫ふて石磴を辿る事七八丁にして其前に達す、結構壯美、社後を寶珠山と呼び古杉森として神寂びたり

○大山寺　は同山の境内一の鳥居の正面老杉鬱然たる所に在り、養老年間金蓮上人の草創に係る天臺宗の古刹にして近江の延暦寺に屬す、其後慈覺大師錫を當山に駐め丈六の地藏菩薩を安置し始て大山寺と號せり、古へ支院四



日野川より大山眺望

嵯峨鳥道夜猶攀　踏盡稿茅枯蕊間
忽見月輪飛笠上　横雲移宿向他山

廣瀬旭莊

十八坊を有し山下に若干の莊園を領し勢力強大兵事に與りたりと云ふ、殊に後醍醐天皇船上山にましませし時は一山の衆徒馳參し忠勤を勵みし事諸書に見へたり、星霜幾春秋、今は只蓮淨院、洞明院、金剛院、普明院、清光院の五六を殘すのみにて他は盡く荒廢に歸したり、緣日は毎年五月廿四日、七月十七日、九月廿四日に執行し中國四國の邊より參詣する者幾萬なるを知らず、又此等の日山陰山陽十餘州の牛馬商陸續登山して境内に牛馬の大糶市を開催す、其喧々囂々の聲一時境域の靜寂を破る、實に天下の一奇觀なり、尙近年政府茲に軍馬育成所を設置し專ら其飼養に努め好結果を收めつゝありと云ふ

○洞明院と阿彌陀堂　山内一の華表を潛り右折して溪流を渡り、一阪を踏れば洞明院は其左方に在り、大山寺所屬の佳什珍寶は皆此の寺内に藏す、即ち國寶としては金銅地藏尊、金銅正觀音、十一面觀音三體あり、此外唐馬遠筆釋迦文珠普賢の三幅、兎殿司筆渡唐天神不動明王、春日法眼筆五大尊等あり、又阿彌陀堂は洞明院の側より數百級の磴道を上りたる所に在り、是れ慈覺大師の建造にて今特別保護建造物たり、堂内には國寶に列せられたる丈六の彌陀三尊を安置せり、古來大山に登りて阿彌陀堂を見ざれば、大山詣での大山知らずと評せらる、如何に其堂宇佛體の凡ならざるを窺ふに足る

○尾高古城址　は當郡尾高村和泉山に在り、當城は永正大永の頃行松氏の據りし所にして、降て元龜二年六月山陰の麒麟兒どうたはれたる山中鹿之助が毛利元就の將吉川元春の術中に陷り、此城内に拘囚せられたりしも、或夜衛兵に一擊を與へ猛然脫出して美作に走り再擧を謀りたる有名の古城址なり

○日野川　は當驛と米子驛と稍中間を北流する大河にして、源を日野郡三國山に發し印賀川を併せ、武庫に至り北折じ巨部谷川を合して會見郡に入り、五千谷村に至りて更に尾燒川を容れ、東尾村に於て米川の一脈を分ち日吉津皆生の諸村を浸して美保灣に注ぐ、此の流域約十八里と云ふ、尙川の東岸東八幡に馬場八幡社在り、養老四年の創設に係る郡中の古社にして舞田別尊外二神を祀り社域清淨、社寶には元弘帝の綸旨、聖太閤寄進の三番叟翁面、米子城主中村一忠寄附の三十六歌仙額面等を始め古器物夥多を藏す

秋月

米子

福知山より百四十五哩七分

鳥取縣伯耆國西伯郡成實村字西大谷に在り、伯耆第一の都會と稱する米子町の一端に處するを以て之を驛名とす、鐵路は此地より別に一線を分岐し弓ヶ濱半島の尖端境町に至る、米子町は實に此の半島の起點に位し、舊池田氏の老臣荒尾但馬守の治府にして、市街の廣袤東西十五丁南北三十三丁餘、戸數約四千人口凡一萬九千五百を有し、市街の西端は中ノ海に瀕む、故に水陸の交通至便にして百貨の集散商業の發展今や駸々乎として向上しつゝあり

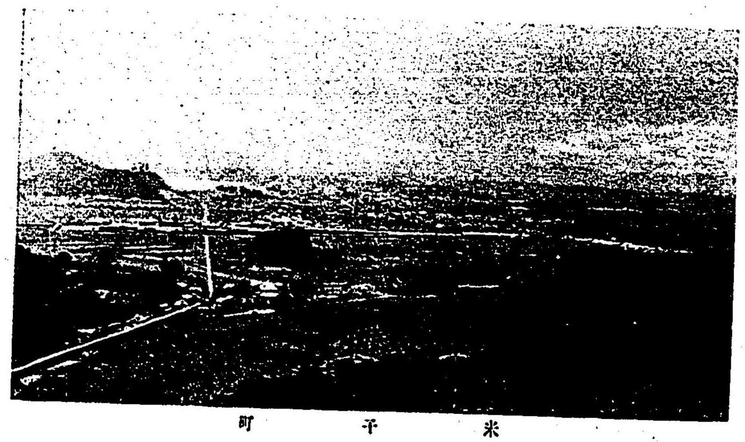
◎米子城址（ヨナゴ）は驛より約九丁市の西方湊山の頂きに在り、一に久米城（クメ）と稱し慶長年間毛利氏の一族吉川廣家の築造する所にして、同五年德川氏之を中村一忠に與ふ、一忠死して嗣なし（加藤右近太夫貞泰美濃より入部せしが、後終に池田光政の有に歸し其臣荒尾但馬を城代として之を守らしめ以て王政革新に至る、今城址は墨壁の一部を殘すのみなるも、天守閣の遺蹟に登れば東に峨々たる大山其勇姿を横へ、脚下に虹の如く夜見ヶ濱繞り西に溶々たる中海（一名錦海）展開矚し目頗る廣濶絶佳なり

◎

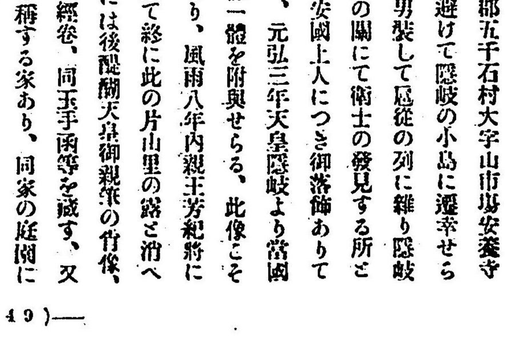
船よする錦の浦の夕波に
たゝむや歸る名殘なるらむ

細川法印

◎米子公園は驛より約十丁當町の西端卽ち中海の沿岸に在り一に錦光園と稱し中ノ海の靈波を隔てゝ出雲の諸峰を望み風光甚だ佳なり、園内には鳳翔閣及日露戰役記念碑あり又園の傍に米子城主たりし加藤家の菩提所清洞寺の古蹟存す



米子町



瓊子內親王の墓

◎瓊子（ケイシ）內親王の墓は驛より約一郡本郡五千石村大字山市場安養寺內に在り、元弘年間後醍醐天皇難を避けて隱岐の小島に遷幸せらる、時に瓊子內親王年甫めて十六、男裝して扈從の列に雜り隱岐に渡らんとし給ひけるが、遂に美保の關にて衛士の發見する所となりさゝへられて獨り此里に留り、安國上人につき御落飾ありて清月庵安養尼と稱し當寺を開き給ふ、元弘三年天皇隱岐より當國へ還幸せられし時內親王に阿彌陀佛一體を附與せらる、此像こそ今尙寺の本尊となれる阿彌陀如來なり、風雨八年內親王芳紀將に二十四歲の秋、金枝玉葉の御身を以て終に此の片山里の露と消へ給ふ、吁悼ましき事にこそ、寺寶には後醍醐天皇御親筆の肖像、帝の冠及裝束の斷片、內親王親寫の經卷、同玉手函等を藏す、又驛より約一里本郡車尾村に深田某と稱する家あり、同家の庭園に天皇靈社と云ふ小祠を祀る、是れ元弘貳年後醍醐天皇隱岐へ還幸の御砌、數日御滯在ありし所なりと傳ふ

中務卿尊良親王

◎

元弘のばしめ、世中みたりかはしく侍りしに、思ひわび、さゝなどかへけるよし聞て、瓊子內親王の許へつかはしける

いかでなほ我もうき世をそむきなむ
うらやましきは墨染の袖

瓊子內親王

◎

かへし

君はなほそむきなはてそとにかくに
定めなき世の定なければ

物產 生絲、絹、酒、醬油、名物、干饅頭、錫、干鰯、押麦、瀝工、

旅館　米吾、岩佐、南、米村、まつ屋、森
料理店　明月樓、同別莊、吉岡樓、泉亭、池佐樓、金魚亭

安來驛

福知山より百五十一哩二分

島根縣出雲國能義郡の東部安來町に在り、當町は米子松江の中間に介在する小都邑にして、市街は東西二十丁南北二十五丁、戸數千二百五十人口五千三百二十を有す、往古須佐乃男命此地に來り、吾心安く平かなりと宣ひしよりやがて安來と稱せしも、中世の頃八杉或は屋杉と作りしか今又古名に復したり、地勢は南に山を負ひ北は中ノ海に瀕し、有名なる十神山は東より突出して安來港を抱し、海陸交通の便大に備はれるを以て商業頗る隆盛なり、町の南方約二里半にして廣瀬町在り、備後街道に衝るを以て人馬の往來繁し

○十神山　は安來港頭に聳ゆる名山にして、古杉老松鬱として繁茂し山容摺鉢を伏するに似たり、此山往時は祇神山と稱し海中に屹立せしが海濱次第に埋沒して遂に陸地に接續せしと傳ふ、天文年間尼子氏の臣松尾遠江守毛利氏の軍勢を防ぐ爲め、此山上に壘を設けて據守せしも幾何もなくして廢せり、彼の俗謠安來節は實に當山を謠ひたるものにて出雲名物として大方の遊子が歡迎する處なり

（安來千軒名の出た所、社日櫻に十神山、十神山から沖見れば、何處の船かは知らねども、滑車の下まで帆を卷いて、やさほ〳〵と鐵つんで上のぼり）

○南山公園　は當町の南一帶の山丘を稱す、園内松櫻の二樹多く、東に大山の秀嶺聳へ西北に夜見ヶ濱の沙汀

安來町

清水寺

中ノ海の激波を望み、近く十神の翠黛呼べば答へんとす、其曉烟暮嵐の景に至りては將に是れ好個の畫題なり

○清水寺　は驛より約一里半本郡宇賀莊村大字清水に在り、天臺宗にして瑞光山と號し推古帝の五年尊隆上人の草創に係り初め敎具寺と稱せしが後ち大同元年盛緣上人再興して今の根本堂を建立し毘首羯摩作の十一面觀世音を安じて本尊とし清水寺と改めたり、殿宇の結構壯嚴を極め千三百餘年の星霜を經るも柱梁の如き依然當時のもの存して古雅愛すべし、其他境内には護摩堂、鎭守諸法堂、常行堂、文殊堂、常念佛堂、吉滿堂、開山堂、二王門、等の堂舍坊斷續として相連り、殊に三重の寶塔は高く鬱茂せる翠綠の上に露盤を捧げ、衆者をして天地更に幽寂の感を深からしむ、寺寶の内本尊十一面觀音と念佛堂に安ずる彌陀三尊は國寶に列せらる、猶弘法大師銘古鐵燈籠、尊圓親王詩歌卷物、土佐光信筆三十六歌仙金屏風、同光起筆小屏風等枚舉に遑あらず

○雲樹寺　は清水寺を距る十丁伯太河畔清井に在り、臨濟宗妙心寺派に屬し、元享二年覺明禪師の創建にして瑞答山と號し後醍醐天皇の勅願所なり、其樓門には帝の御宸筆（天長雲樹興聖禪寺）の勅額を掲ぐ、寺寶には高麗傳來の古鐘及び覺明禪師の畫像あり共に國寶に列せらる、此他當寺は南北兩朝の眷顧を被りたりとみへ宸翰綸旨夥多を藏す、境内幽邃堂塔甚だ壯嚴なり

○廣瀬町　は安來を距る約二里半飯梨川の左岸に在る名邑にして能義郡役所の所在地なり、戸數約九百人口凡四千九百を有し、寛文六年國主松平綱隆その弟上野介近榮に三萬石を分與して居らしめたる地、子孫世襲して明治維新に至れり、川を隔てゝ月山古城址あり城主は初め平氏の驍將惡七兵衛の築きしものにて、文明年間山陰の勇將尼子氏の據守せし所なり、慨橘談に、慶長十二年松江城成る是れより富田（月山）の山城は荒れ

て草のみ茂り侍る、とみへたり

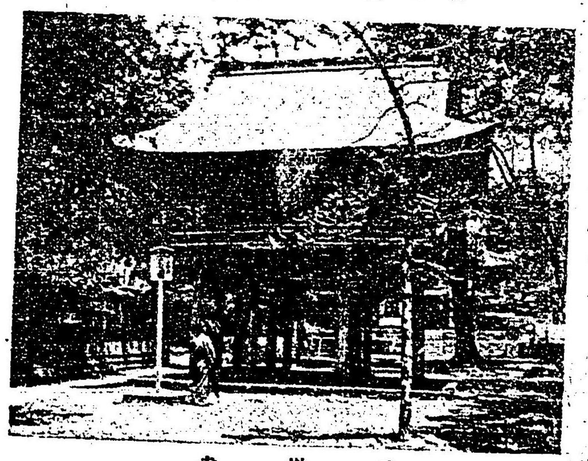
○夏草や兵士どもが夢の跡　芭蕉

○比婆山　は安來町距を約四里井庄村大字峠の内に在り、古事記に伊非冊尊を出雲伯耆の國境比婆之山に葬り奉る、とあるは此山なりと傳ふ、古來安産の神なりとて當山に參拜するもの多し

物産　米穀、生絲、饂飩、酒、醤油、鐵鋼、赤貝、木炭、材木(以上安來)、廣瀬絣(廣瀬)、名物、十神餅、鰕の匂玉煮(以上安來)吐月糖(廣瀬)

旅館　荒文館、相阪、大原(以上安來)鈴木、木安、三島(以上廣瀬)

料理店　山常樓、瓢屋、錦海樓、十神館(以上安來)水谷樓、關東樓(以上廣瀬)



雲樹寺

荒島驛

福知山より百五十四哩二分

島根縣出雲國能義郡の西端荒島村に在り、當村は中海に濱し東西南北共に三十餘町、戸數五百四十人口約二千六百を有す、古來此地より荒島石と稱する一種の軟石を産出するを以て有名なり、附近名所舊蹟等別に見るべきものなし

物産　米穀、石材、石粉

旅館　魚源(料理店兼業)、柳屋、田部、入江

揖屋驛

福知山より百五十七哩七分

島根縣出雲國八束郡揖屋村に在り、當村は中海の沿岸に位し東西二十餘町南北三十丁、戸數六百七十人口約二千六百を有し、鰕の産地として知らる、附近社寺名所等記すべきものなし

物産　鮮魚、鰕、經木眞田

旅館　橋本屋、大勝(以上料理店兼業)

馬潟驛

福知山より百五十九哩六分

島根縣出雲國八束郡竹矢村に在り、當村は宍道湖の中海への落口馬潟の瀬戸即ち大橋川口に位し、戸數三百六十人口約七千を有し、外洋滊船の終航地なるを以て客貨の集散稍頻繁なり、彼の安西軍策に、天文十三年十一月馬方の正久寺へ義隆郷本陣を被替富田城へ責寄せらる、とみへ、又巡拜記に、永祿四年四月尼子毛利兩氏の軍馬方の原に出合ひ一戰に及ぶとあり、以て當年汗馬の地たりしを知るべし

○平濱八幡宮　は驛より約十町當郡竹矢村に在り、源頼朝の勸請にして雲州八ケ所八幡の一なるも今は荒廢して昔日の觀なし、此境内の末社に武内神社と云ふ在り、武内宿禰を祀る、延壽と神として遠近より來り參する者夥し、殊に毎歲八月卅日の大祭には無慮十萬の信者を集むると聞く

○枕木山　は驛の北當郡本庄村に在り、山頂に有名なる華藏寺と云へる古刹ありて藥師如來を安す、境内老樹古木鬱茂し頗る幽邃なり、殊に隆霜の季に至れば滿山恰も獨江の錦を以て飾られたるが如く小杜をして漫に車を停めしむる値あり、而も中海の青螺大山の靈峰、双眸に集り來つて至ろ行客をして去る能はざらしむ今此地に遊ふには馬潟より小蒸氣に貸し中海を渡り、本庄村に到るを捷徑とす、又境港よりするも便利にして共に水路二里陸路三十丁とす

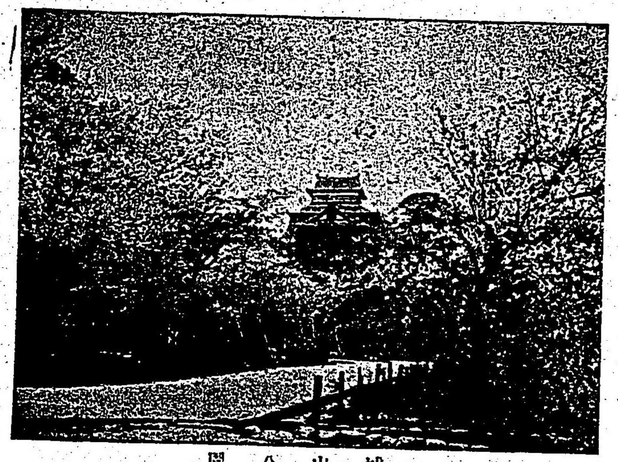
物産　米穀、木材、銅

旅館　島屋

松江驛

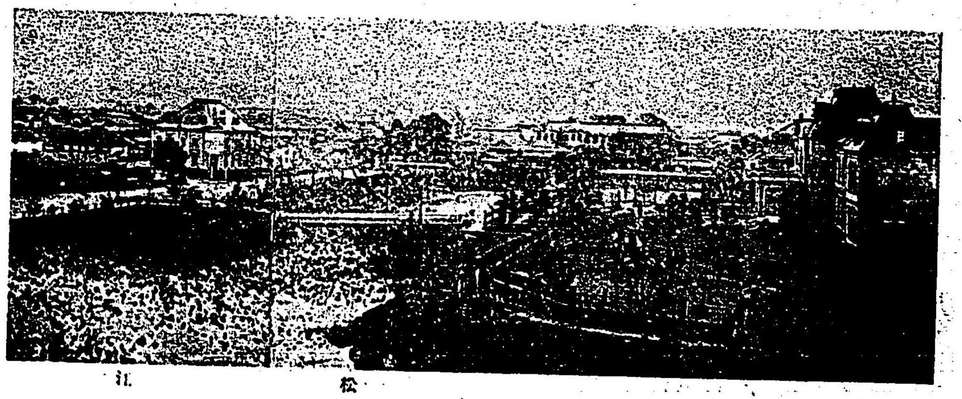
福知山より百六十三哩七分

島根縣出雲國松江市に在り、當市は宍道湖の東北岸に沿ひ舊松平氏十八萬石の城下にして廣袤東西二十九丁南北約一里、戸數八千四百七十八口凡四萬一千を有し雲、石、隱の三國を管轄する島根縣廳の所在地なり



城山公園

湖水は大橋川天神川となりて市街を貫流し、架するに大小の橋梁を以てす、就中大橋川に架する大橋下は中海宍道湖に來往する滊船の錨地なれば鐵路の運輸と相俟て百貨常に輻輳し、車馬行人織るが如く實に山陰第一の都會なるを思はしむ、若し夫れ大橋々上に佇みて四顧せん乎、東に大山の秀峰、西に宍道湖の清淵、北に千鳥城の白亞聳ゆるあり、その遠近濃淡の山影湖光相映ずる景は、眞に文人墨客にあらざるも詩趣自



松江

から湧くを覺へん

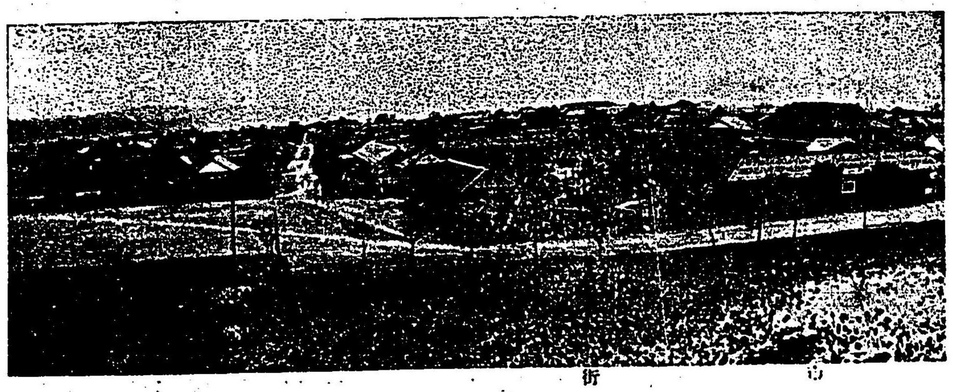
○

岡本黃石

舊邦形勢冠山陰　最勝名區景象森
城樓突兀俯湖灣　初來客愛風光美
應似武昌幽絕處　便同坡老滯留心

八重垣神社

○宍道湖（しんじこ）　は本邦十二景の一にして周圍十三里餘一名碧雲湖と稱す、當國西部の諸水を派けて東大橋天神の兩川より馬潟瀬戸を經て中海に決す、慨舊談に、宍道の湖水は堅六里横三里と稱したり又佐陀の海と曰ふ、天滿（松江）の里に近く嫁ケ島あり、湖上に赤壁十六禿などゝ云ふ奇勝あり、一歩に一景、十歩に十景、花桑々柳惹々、鳥關々魚潑々、戸重々樓亭々、船搖々人來々、無聲詩にも有聲の繪にも寫し難きは此の風景なり、と賞賛せり、湖中の鯉、鯉、白魚、鮒等生ず、就中鯉は支那松江の産と同じく巨口



街

細鱗にして、四腮を有するを以て著名なり、松江の市名蓋し之れより起ると傳ふ

◎松江城址　は橋北龜田山に在り、慶長六年堀尾吉晴の築く所にして一に千鳥城と稱す、寛永十二年京極忠高入部せしも同十五年松平直政封を受けて當城主となり、世襲して明治維新に至る城を環らすに濠渠を以てし二の丸三の丸は唯礎石を存するのみなるも、五層の天主閣を依然として中央に聳へ雲伯の山河を睥睨す、今廢墟を拓きて城山公園とし市民の遊散に任す、園内に松江神社あり縣社にして藩祖松平直政の靈を祀る、社殿壯嚴風光甚だ鮮かなり

◎天神遊園　は市の橋南天神町なる天滿宮境内に在り、南は天神川を隔てゝ南山の微峯と對し、西は宍道湖に面して嫁ヶ島目睫に在り、園内亭々たる松樹の下、酒樓劇場等軒を並べ尚夏季は適所に涼臺を設け露店を出し以て納涼の客を待つ而して天神社は園の中央に鎮し延寶五年松平氏の造營に係り、祭典は毎年七月二十五日に執行し頗る賑ふ

佐々木高綱の墓

◎朝霧に一つ鳥居や波の音　其角

◎床几山　は驛より約十五丁市の南端に在る一小丘にして、昔堀尾吉晴が松江城築造の際、床几に倚て地勢を相したるより此名ありと云ふ、瞰目廣大湖山の勝景掬すべく、山上に目露役紀念佛及び倫著雨宮撫翁、澤野含齋等の碑存す

◎袖師の浦　は松江市の南端宍道湖畔に白く水清き所を云ふ、老樹汀上を掩て風塵到らず、巖頭石佛、立つて滿目寂然、唯閑鷗釣舟の去來するのみ

◎佐々木高綱の墓　藤原成實

戀すてふ袖師の浦にひく網の
目にたまらぬは涙なりけり

◎梁山　は市の東北一里川津村に在り、元藩主の別

墅ありし地にして山内靜閑、秋露一度下れば紅葉綠樹に交りて風致愛すべし、附近梁山陶器製造所あり彼の名若松平不昧公の御庭燒の遺法を傳へて雅品を製出す

◎潛戸の神窟　は驛より約三里八東郡加賀村に在り、懸崖百尺海中に突出し洞門自から開けて小舸を通ず、長さ數百尺高さ三十餘尺、傳云ふ昔佐太御大神が誕生の靈蹟なりと、洞下の深潭藍水渦卷きて青龍水底に潛めるが如し

◎　　嫁ヶ島

あやしくも奇しきは浪の力かな
こゝや潛戸の神の岩窟

◎佐々木高綱の墓　は驛より約二十丁、八東郡乃木村養光寺内に在り、昔し宇治川の先陣に曉名を轟かしたる四郎高綱を葬りたる處、さしも忠勇なる英雄も、梶原の毒舌に罹りて轗軻落魄、舍弟義清を便りて當國に來り當寺を建立して茲に老を養ひ、終に七十五歳を以て黃泉に旅立ちしと云ふ、碑は圓柱形にして當寺開山正阿彌陀佛益必濃院殿法嶺源性大居士と刻す、明治の名將乃木希典伯は實に高綱の後裔にして其先祖は當乃木村より出でしと聞く

◎　　蜻蛉や日本に似たる顏もせず　大江丸

◎八重垣神社　は驛より約一里八東郡大庭村大字佐草に在り、祭神は素盞嗚尊、稻田姫命、大國主命にして古へより緣結びの神として名高し、社後に小池あり紙片に意中の人の名を書し之れに文錢一個を載せて池上に浮べ、紙片早く水中に沈む時は望み叶ひ遲き時は之れに反すと云ふ、又境内に古杉の神木あり、其皮を肌守りとする時は良緣ありとて剝取る者多し、祭典は毎年五月三日、十月二十日、十二月十五日に執行し青年男女の參詣者多し

◎　　素盞嗚尊

八雲立つ出雲八重垣妻ごめに
八重垣つくるその八垣を

◎佐太神社　は驛より約二里八東郡佐太村神名火山麓に在り、祭神は佐太御子大神にして社殿壯嚴、境域廣濶有名なる古社なり、毎年御齋祭には天地八百萬神、杵築宮を辭して此社に集ひ給ふとぞ參詣者多し、又驛より三里當郡熊野村に熊野神社あり素盞嗚尊を祀る、往古此社は出雲大社の父祖に當らせらるゝを以て社格當國第一なりしと傳ふ、現今の社殿は吉川氏の造營に係り結構甚だ壯嚴なり

◎一畑寺　は驛より約一里廿丁簸川郡東村一畑山の半腹に在り、臨濟宗にして醫王山と號し藥師如來を本尊とす寛永六年補然和尚の創建に係り石雲和尚を中興の祖とす、境内眺望に富み宍道湖中海の碧波脚下に展開し明媚秀麗なる言語に絶す、此寺古くより眼病に靈顯ありとて毎月八日の緣日の如きは通夜する信者禮拜堂に充ち其眼病に効驗ある醫王水は方丈の玄關前に在りて賽者必ず竹筒に汲んで歸路に就くと云ふ、松江より茲に參するには、大橋々畔より小蒸船に據りて小境に上境し、夫れより阪の下迄約一里あり人車通ず、車を捨て三四町磴道を登れば即ち寺門なり

潛戸

◎

眼のくもりやがて晴れゆく醫天山
これぞ日本一畑の寺

◎松江の方言　松江地方は從來他國と交通頻繁ならざりし爲め、言語に一種の訛ありしが今は小學教育普及せる結果、固有の方言最早其跡を絶たんとす、左に最も甚だしき方言を集めたる俚諺を揭げて松江の案内み終らん

私は雲州平田の生れ、十里二十里三十里、西の果から東の果まで、引くづる引ツはる來たものを、今さら

暇とて暇どらぬ、廣い世界に、コナ日那さん、主一人。

物産　米穀、生糸、羽二重、樂山陶器、鐵詰、八雲漆器、壁表、瑪瑙、鮮魚、名物　鱈

新聞社　松陽、山陰

旅館　皆美、一文字屋、赤木、大橋、朝日、勝部、岩田、

料理店　臨水亭、松崎永亭、春陽館、望湖樓、山田水亭

湯町驛

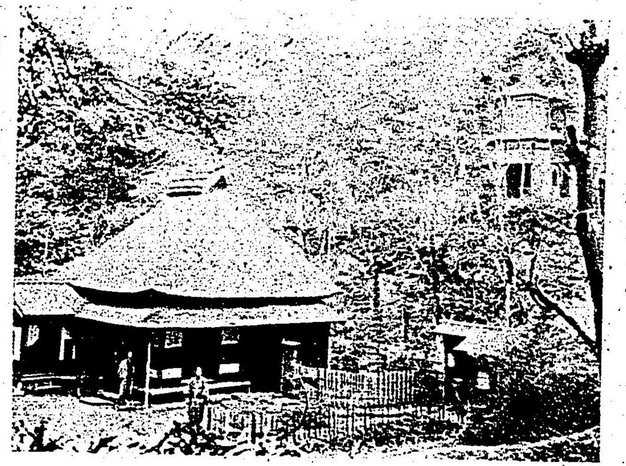
稲知山より百六十七哩八分

島根縣出雲國八東郡玉湯村字湯町に在り、當村は玉造川の下流に位し東西一里餘南北一里、戸數百廿人口約六百八十餘を有し、風土記に、一溜則形容端正、再浴則萬病悉除、自古至今、無不効驗、故俗人目神湯也、と誌し古來靈泉の湧出と瑪瑙の産出するを以て有名なり

◎玉造温泉　は驛より約十五丁當村大字玉造に在り、温泉の紀元は遠き神代に屬し、彼の枕草子に玉造の湯とあるは即ち此温泉を云ひしものにて、寛永年中國主浴場を改築せしより益々浴客の來遊するもの多きを加へたり、泉質は鹽類泉にしてレウマチス、咽喉病及び婦人の諸病に特効あり、温泉宿は孰れも内湯を設けたれば沐浴頗る便なり、地は後に花仙、要害の二山を負ひ、前に玉造川の清流を控へ閑雅幽靜の別天地なり

◎玉造神社　は温泉の附近に在り、玉造部の祖、櫛明玉命を祀る、命は能く勾玉管玉等を作り以て天照太御神に奉仕し、此子孫居を茲に移して玉を造る是を出雲の玉作と云ふ、と古書に見へたり、今社寶として琢玉に使用せし砥石及半製の勾玉等を藏す、由來此地の山中より産する瑪瑙の中青瑪瑙は天下一品の稱あり、延喜式に、出雲國造、奏進玉六十八枚、赤水精八枚、白水精十六枚、青石玉四十四枚、とあり青石玉とは蓋し青瑪瑙の事なるべし

◎佐々木義綱の墓　は驛より十八町玉湯村大字布志名に在り、義綱は元弘の忠臣にして富士名判官と稱し、後醍醐天皇隱岐國より船上山に還幸ありし時、出雲の守護職隱谷判官高貞と共に一番に參向して賊軍を防げり初め彼れは隱岐の皇居に於て中門警固の武士なりしも忠義の心深かりしを以て主上の御覺へ厚く、終に官女の一人を給りたる事さへあり、今墓畔に福羽美靜子の撰文に係る碑建てり就て見るべし、又有名なる布志名



十千年莊

陶器工場は茲を距る數町宍道湖畔に在り雅品を製出す

○

布志名山その山風は千代かけて
みな思ふべしみなあがむべし

物産　布志名陶器、瑪瑙、樂山燒

旅館　保主館、豆腐屋、米子屋、濱屋、長谷川

宍道驛

福知山より百七十四哩三分

島根縣出雲國八束郡宍道村に在り、當村は宍道湖の西南岸に位し東西一里、南北三十丁、戸數九百三十人口約四千五百を有す、古來此地は國道に沿へる名邑にして仁多、大原、飯石三郡の物貨集散地として商工の業稍振ふ

○十千年莊（ぢうせんねんそう）　は驛の南三丁の山間に在り、此地の富豪木幡文右門の有にして元（獨樂窩）と稱す、莊内に一宇あり平家茅葺なれども其楹柱楣欄の類を盡く全國著名の古刹舊家茅葺なれども其楹柱楣欄の類を盡く全國著名の古刹舊家より買なし、前面は一碧鏡の如き佐陀の海開け、煙霞泉石の微細なる

福知山より百七十六哩八分

島根縣出雲國飯川郡莊川原村に在り、宍道湖に注ぐ斐伊川の支流新川の南岸に位す、東西二里南北一里餘、戸數千五十人口約四千八百を有す

○水德寺　は驛より約八丁臨濟宗の古刹にして、寺内の慈雲閣と稱する堂中には弘法大師作の觀世音菩薩を安ず、又神應堂には不昧公手植の茶樹あり、其他訪ふべき遺跡少なからず、尚此地より數丁にして湯の谷鑛泉あり諸病に効驗あり

○　霞　溪　子

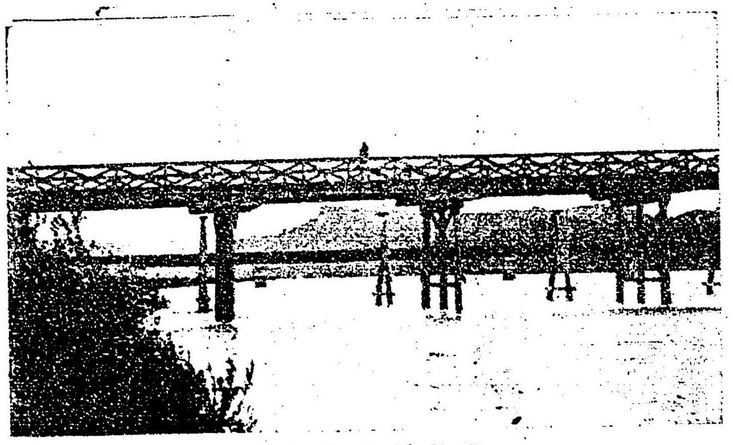
茶の花や庫裏もわかざる廣き寺

○運量寺　は驛より一里文治年間の草創に係り出雲三十三番の札所中第六番に列す、本尊聖觀音は惡覺大師の作にして脇立の不動尊は弘法大師の作なり、境内櫻樹多く花時節を曳く者多し

○大黑山　は驛より約二千丁山容大黑天の像に似たるを以て斯く呼ぶ、太古大國主尊國土を經營し給ふ時、當山に登りて地理を相せられたりと傳ふ、側らに兵主神社あり大國主尊外三神を祀る、境域幽雅なり

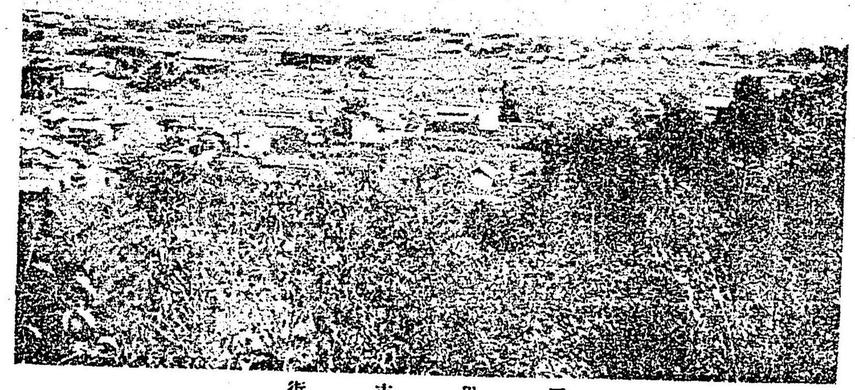
物産　米穀、鵜、鯉、鮒

旅館　鍋屋、辰巳屋、天屋（料理店兼業）



斐伊川と神立橋

直江



平田市街

稲知山より百八十哩六分

島根縣出雲國簸川郡伊波野村に在り、郡中の名邑直江村に隣接するを以て驛名とす、直江は東西一里餘南北十八丁、戸數五百七十人口約二千五百を有し、古事記に權櫛之長穗宮とあるは即ち此地ならん

◎萬九千神社　は驛より二十丁斐伊川の東口に在り、櫛御氣奴命、大穴牟遲命、小名彦命を合祀す、毎年十月二十六日は諸神出雲大社より佐太神社を經て當社へ神集ひ、夫れより諸國へ歸り給ふと傳へ曉を冒して參詣する者多し

◎　武納塔

出雲路の雲の旗手や神の旅

◎岩野藥師　は驛より三町老松鬱蒼たる處に堂宇在り、僧行基作の藥師如來を安す、靈驗赫燿參者陸續たり

◎斐伊川　は源を仁多郡船通山に發し大原、飯石兩郡の間を縫ふて簸川郡を浸し宍道湖に注ぐ雲州第一の大河なり、國道に神立橋と云へる虹の如き長橋を架す、此河は即ち往古の簸の川にして上流船通山麓は素盞嗚尊の八頭の大蛇を退治て紫雲の寶劍を得給ひたる古き史蹟を有する所なり

◎平田町　は驛より北方一里餘を隔てたる小都會にして戸數千五百餘、人口約六千七百を有し工業頗る盛なり

尙此地より一水宍道湖に通じ和洋小船の出入自由なるを以て松江市との交通至便なり

物産　生糸、羽二重、畳、米穀、名物平田饅頭、生姜糖、都小倉(菓子)

旅館兼料理店　川島、藤屋、學頭屋(以上直江村)阪本屋、三島屋、幸野屋、鍋屋、松野屋(以上平田町)

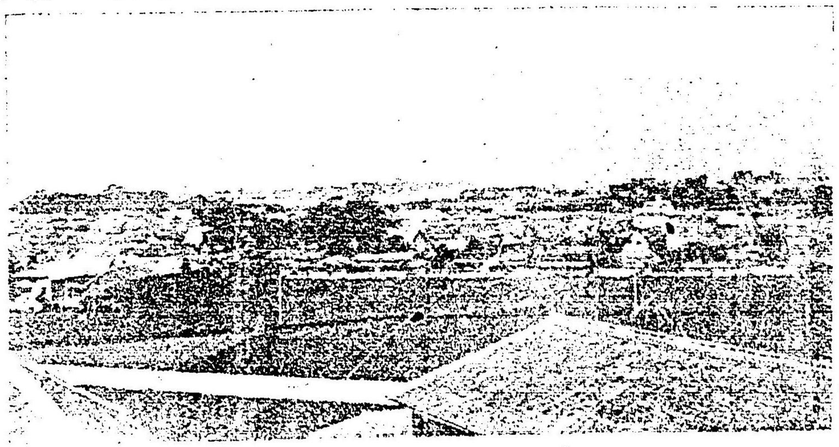
杵築

稲知山より百八十四哩

島根縣出雲國簸川郡今市町に在り、當町は簸川大平原の中央に位し東西十八丁南北十三丁、戸數千四百八十人口約六千六百を有し、當國西部に於ける物貨の集散地なるを以て商業頗る盛なり、殊に茲より二里十五丁餘を隔つる杵築町に鎭り給ふ出雲大社參詣の順路（本年六月の交には鐵路杵築に開通するを以て大社參詣者は杵築驛に下車せらるべし）なるを以て交通頻繁車馬の來往日夜絶ゆる事なし

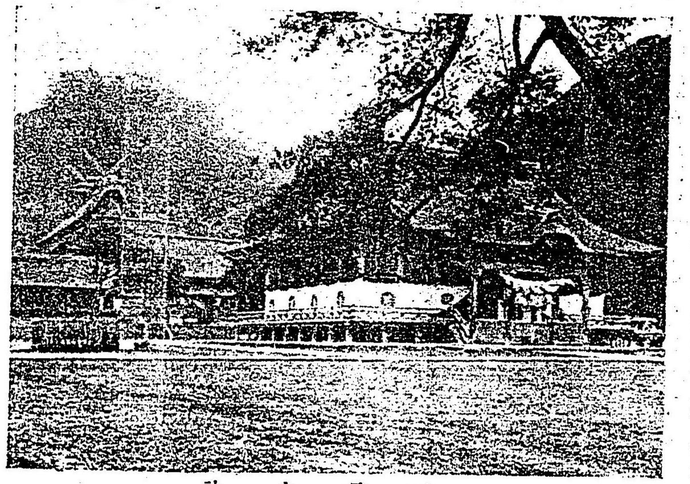
◎杵築(きづき)町　は驛より約二里二十丁當郡の西北海岸に沿ひ出雲大社鎭座し給ふ、町の廣袤東西十四丁北南十三丁戸數九百六十人口約五千を有し、諸商軒を連ね殊に旅舍多く常に大社の參詣の客を以て充たさる

◎出雲大社　は町の北端八雲山の麓に鎭りまします官幣大社にして素盞嗚尊の御子大國主命を奉祀す、命は御名を大巳貴命と稱へ奉り夙に國土を經營し邪神を夷げ、蒼生を安んじ給ふに及び大國主命と尊稱す、後に天照太神の神勅を奉じ國土を天孫瓊々杵尊に捧げ、退いて宮を多藝志小濱に築き天日隅宮と號し給ふ、太神即ち天穗日



今市市街

命を遣はして留まり仕へしめ給へり、是れ今の本社にして天穗日命の血統連綿として世々祭事を掌どり上古之を國造と云ひ現下の千家、北島兩家は實に其後裔なり、當社は太古天照太神の勅を奉じて諸神の築き給へるものにて宮の板は廣く厚く柱は太く高く千尋栲繩を以て結び固め、高橋、浮橋、天ノ鳥船等をも造りて備ふ、之れを後世三十二丈造りと稱す、降て垂仁の朝に至り社殿を改造して皇宮に擬し十六丈の宮御りと云へり、後又假殿を築きて八丈造りと稱ふ、天仁三年七月巨木百本偶然杵築の浦に流れ寄れるを以て武内宿禰此の木材にて社殿を新造す、後世寄木の御造營と云ふは是れなり、今存する社殿は明治七年の造營にして宮域凡二萬二千七百餘坪、四方環らすに瑞離を以てし内に拜殿社務所、會所、八足門、飛彈匠作と傳へる葡萄に栗鼠の彫刻ある樓門、神饌所、鑽火殿、觀祭樓を初め攝社末社整々として駢列し神威益々嚴かなるを覺へしむ、社後に八雲山高く秀で鶴山、龜山左右に列り長松空を蔽うて諸々の俗塵を遮り、瑞鳥時に幽音を弄して寂靜眞に太古の如し、社寶の重なるものは後醍醐天皇御寄附の谷風の琵琶、永雲夢想の木葉、靈元天皇の御宸筆、德川家綱の書、同家宣の歌帖、土佐光起筆三十六歌仙の額、足利義教の甲冑、豐臣秀吉の佩刀、吉川廣家寄附の白玉笛、板倉勝澄寄附の黃變羽箭、其他古鏡、曲玉、筑紫鉾等枚擧に遑あらず、式典甚だ嚴かに參詣の男女遠近より雲の如く集り頗る



出雲大社

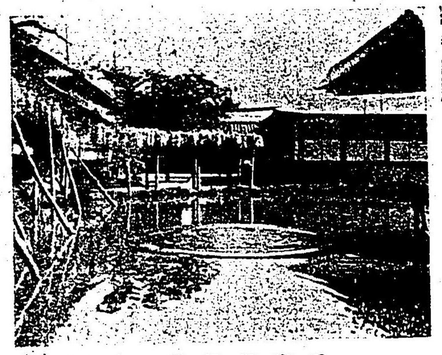
大祭は毎年五月十四日より十七日に亘り執行せられ、殷賑を極む

青松夾路鬱成行　祠殿巽宏開向陽
是爲高神錫嘉福　州民永待樂環穰

千家尊福

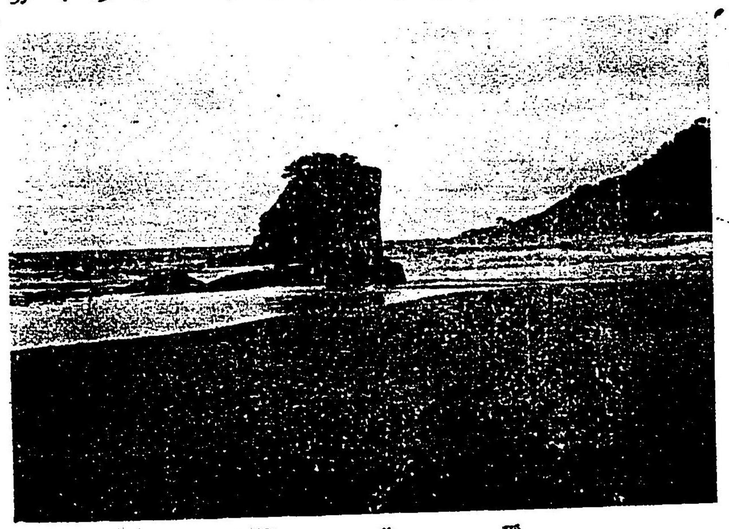
君か代のもとひ杵築の宮柱
高き御影を仰かざらめや

◎千家國造館　は大社の西御山の麓に在り、邸第頗る宏大にして屋根は檜肌葺又は瓦葺なるも、獨り齋火殿は茅葺にて素撲雅趣自から古代の風致あり、國造は代々天照大神より賜りたる火鑽臼、火鑽杵を奉じ終歲齋火殿に住し、別火潔齋して大社に仕へまつりしも今は祭祀の前日より入殿して潔食する事となれり、現當司千家福麿氏は實に八十二代の國造にして帝國最古の名門なり、故に藏する所の佳什珍寶頗る多く就中、巨勢金岡筆出雲大社古圖、菅公自筆の像、應擧筆山水雪景、唐馬遠筆山水、小栗宗丹北鳥、清人郎世寧、唐岱合作花鳥洲石の大幅孰れも得難き天下の一品なり



千家男爵邸

◎稻佐濱　は杵築町北方の海岸と云ふ、太古天照太神の御使が大國主命に國を讓るや否を問ひ、武雷神と經津主神が大國主に迫り國避を



稻佐濱

奉答せし靈蹟なりと傳ふ、一大岩石の上に辨財天を祀る其前に鯨岩あり形狀恰も鯨に似たり、濱は日本海に面し南に二瓶山高く聳へ山脈蜿蜒として遠く石見の大浦鼻に連る其綾川郡小田に至る間を俗に三里濱と稱す北は近く八雲山鶴山と共に海中に斗出すること二里神端を日御碕と爲す、其間一大灣を成し灣内嶋燒島、壁島、笹子島點々海上に泛ぶ抔風光雄大且つ明媚なり、海は遠淺にして潮水清潔なれば夏時海水浴に適す、附近養神、保養の二館を初め旅舍多し

◎　二見城

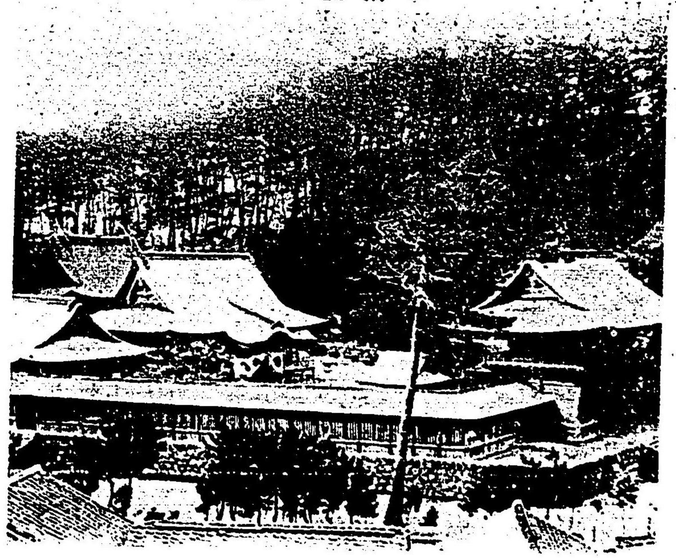
初汐を神かぶりけり磯祠

◎　佐々鶴城

この國は命のまゝにまつらんと
事避りましゝかみ代しおもほゆ

◎杵築松島　は稻佐濱より日の御崎に向ふ航路に在り、立島又筆投島と稱す、老松巖石を掩ひ潮風濤聲に和して琴瑟の響きを生ず、顧れば烟波遙々たる所石見の三瓶山を望み風光絶佳也

◎日御碕神社　は當國綾川郡日御碕村に在り杵築町より約三里、稻佐濱より船に據れば一時間にて社前に達すべし、社は國幣小社にして上下の兩社に分れ、平地に在るを下宮本社と云ひ天照大神を祭り、高地なるを上宮本社と稱し素盞嗚尊を祀る、社殿は檜皮葺にて朱欄丹楹、社頭の翠松と相映じて壯麗云はん方なし、又西南一帶日本海に接し輌島、厩島、文島の諸島蟠波上に棊布し眺望頗る廣濶なり、社寶には碧谷高貞寄附の兜、名和長年の腹卷、及源賴朝寄進の甲冑等を藏す、又茲より約四丁生落と云へる所に日御碕燈臺在り、一等燈臺にして白色回轉射光力二十一海里に及ぶと云ふ

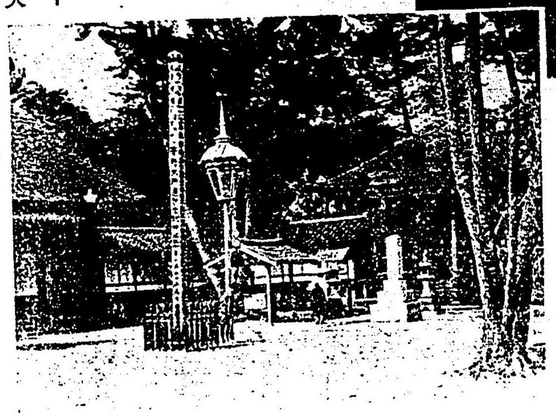


日御碕神社

神門寺

◎ろは四十七文字を創作せし所として有名なり、故に大師自筆の四十七文字一幅を珍藏す、又附近古志村に弘法寺在り、本尊には大師自作の等身像を安す、堂宇甚だ大ならざるも眞言秘密の霊場として賽者多し

◎妙見の桃林　は杵築町より約一里當郡園村に在り、一帶に砂丘連り桃樹數千株林を成し、陽春の候に至れば彩雲丹雲蔚々として宛かも武陵桃源を想見せしむ、附近長濱神社在り社殿丘陵の上に建ち眼下に神西湖を望み風景甚だ佳也



弘法寺

◎

青々
一ト平砂山端シや
桃の花

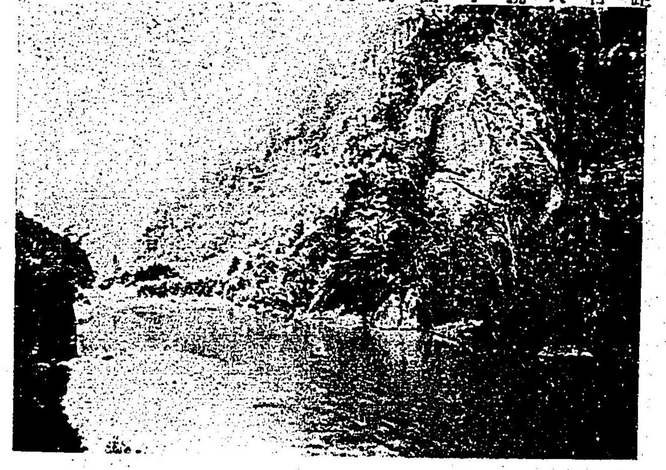
◎神西湖　は杵築町より約一里神西村に在り、周圍約二里と云ふ、一條の翠松湖中に走り恰も天の浮橋の如く湖光相映じて四顧の景趣頗る鮮かなり、湖上船を浮べ釣を垂るに適す

◎立久恵の奇勝　は驛より約三里當郡乙立村に在り、一に神龜峽と云ふ、神戸川の上流にして一條の淵水怪巖削立せる兩山の間を貫く、小船に負して流れを溯れば左右の翠影舟中に落ち入も

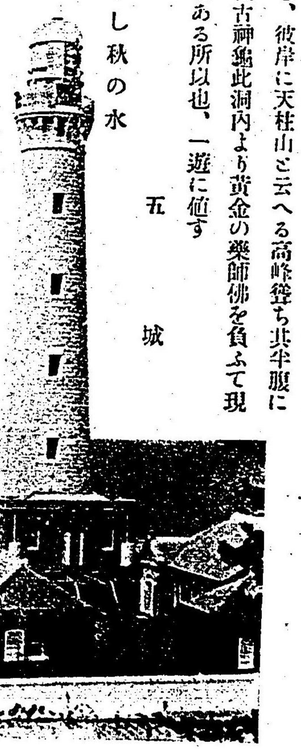
水も爲めに紺碧の如く青し、彼岸に天柱山と云へる高峰聳ち其半腹に一の洞穴を望む、傳曰ふ往古神龜此洞内より黄金の藥師佛を負ふて現れたりと、是れ神龜峽の名ある所以也、一遊に値す

五城

山二つ迫りて早し秋の水



立久恵



日御碕燈臺

○鰐淵寺は驛より約一里四丁當國簸川郡鰐淵村字別所に在り天皇宗に屬し今を距る一千三百餘年推古天皇の御宇智春上人の開基に係り、山號を浮浪山と云ふ、寺域凡二萬四千坪四面峰巒圍繞し巨木老樹鬱茂して靈刹を擁護するが如く、古淵寺溪の間に清流潺々たるあり、又斷崖絶壁に飛瀑懸りて水沫玉と散り華と飜へる、其山光水色の幽邃優美なる眞に安樂淨土の思あらしむ、此寺維新迄は鰐淵十二坊と稱へ頗る盛大なりしも今は本尊藥師如來を安する根本堂、釋迦堂、常行堂、叱枳尼天堂、地藏堂、開山堂及數宇の僧坊を殘すのみ然れども浮浪の瀧及び鰐淵八勝の景致は益々雅趣を加へ來り、其を秋葉の眺めは實に近國無比と稱せらる、寺寶の内名和長年の眞筆は曾て天覽を辱ふしたる古今唯一の絶品なり、行客若し當寺に賽せんとせ

ば高濱村字矢尾迄俥の便をかり、夫れより來戒峠の坂路十三丁を踏へ流れに沿ふて往く事約十四丁境域の入口般谷溪に達す、茲より尚ほ小暗き老杉の下を廻り崖道を行けば二王門在り、一橋を渡り數百の磴路を登り盡せば即ち本堂に達す、左に鰐淵八勝を掲げ當寺の案内を終らん

般若溪、羅漢橋、稚子淵、大悲閣、推古杉、僊堂塀、飯盛山、鰐淵瀧

稲水

○一山の紅葉動きて入る日かな

物産　米穀、鹿、牛、酒、生糸、鮮魚

名物　鯛田麩(今市)神木餅、出雲若布(菓子)燒鹽、八雲飴(以上杵築)

鰐淵寺

浮浪瀧

旅館　黒崎、加藤、片岡(以上今市町)因幡屋、竹の屋、森鶴、增吉屋、大島屋、山登屋(以上杵築町)

後藤驛

福知山より百四十七哩一分

鳥取縣伯耆國西伯郡福米村に在り、當村は米子町の一端に在りて戸數三百餘人口約千八百を有し、米子より境に至る途中最初の驛なり

◎粟島神社　は驛より約一里本郡彦名村の丘上に在り少彦名命を祀る、神祇志料に、命に葦原色許命と兄弟となりて心を一にし此國を作り堅め給ふ、とあり俗に緣結びの神と稱へ參詣者多し、此地は寶暦の頃迄は一の島嶼にして土人はアジマ又は粟崎と呼び、出雲風土記に、意宇郡粟島、有稚松と誌すを見ても明かなり

◎　むらさき

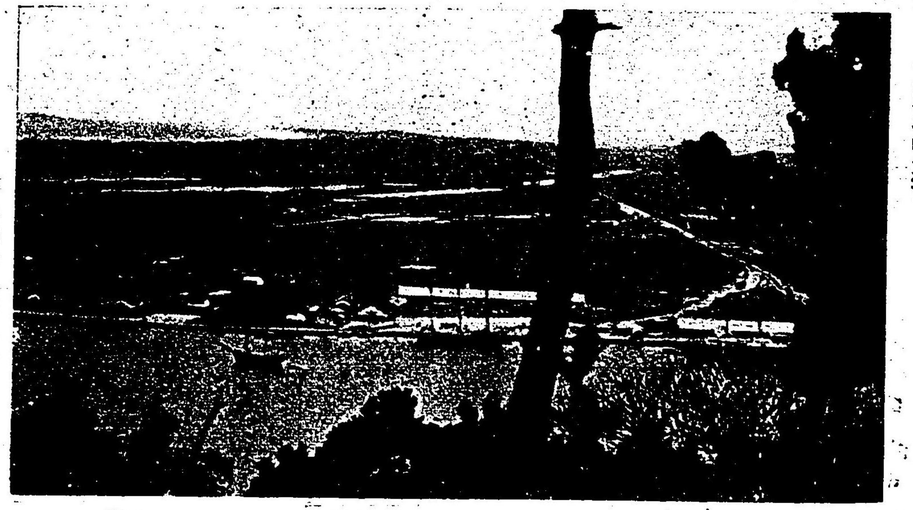
神の留主結ふ赤繩の沙汰ばかり

大篠津驛

福知山より百五十三哩一分

鳥取縣伯耆國西伯郡大篠津村に在り、當村は東西三十丁南北十五丁、戸數三百五十人口約千八百を有し、中海と夜見ケ濱との中間に在る一村落なり、往時此邊に切戸ありて海水東西に走れりと云ふ

◎大根島　は驛の前面中海内に在り出雲の八東郡に屬する一個の小島にして、島内波入、二子の二村に分れ戸數凡一千、人口約四千六百を有す、懷橘談に此



境町

島は大根の風味宜しければ斯く名づけ侍る、とみゆ

◎　眉月

大根のうつろは知らぬ我身かな

◎夜見ケ濱　は驛より八丁山陰著名の推洲にして、西方に向ひ米子町より境港に通ずる長汀四里の間を云ふ、其左は中海を擁し右は美保灣に瀕し、沙濱彎曲して一大弓狀を成す故に一名弓ケ濱と稱し、一帶に翠松連り氣車其傍を縫ふて走る、故に詩人墨客は又之を大天橋と呼ぶ、蓋し丹後の橋立に比し景趣遙に雄大なるを以てなり、若し夫れ此の壯觀を一望の下に眺めんとせば、大山の中腹か乃至對岸雲州の鷹尾山を好しとす、其溶々瀲々たる水光を劃して青龍にも似たる大長汀透迤たる樣、形容終に盡けども成らず語るに辭なし、眞に天然の絶勝也

◎

昨日まで荒き潮路をこちし身
波面白く寄れる春の海

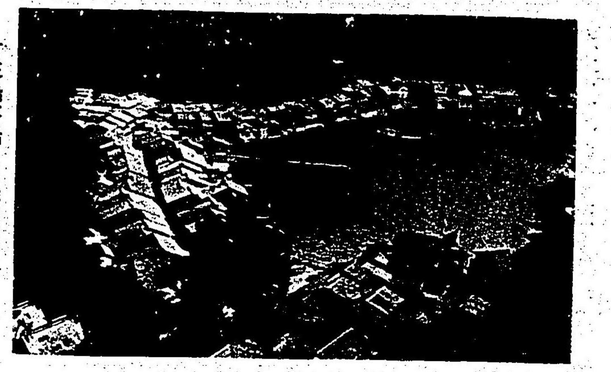
境驛

福知山より百五十六哩五分

鳥取縣伯耆國西伯郡境港の一端に在り、米子より分岐する鐵路の終點とす、境町は廣袤東西二十丁南二丁、戸數千三百人口約六千餘を有し、中海の美保灣に注ぐ水道中江の瀬戸を隔てゝ、雲州八東郡森山村と相對し古來山陰道唯一の良港と稱せられ、海運全使の要衝なり

境全景

しが鐵路の開通以來陸運も又大に開けたり、故に外海に向つては下關、舞鶴、敦賀等に定期船の航通あり、內海にありては舟行能く松江市に達し更に出雲の宍道湖に通ず、湖は即ち中江瀨戸の一部なれば波濤常に靜穩、加ふるに水深干潮十二尺乃至三十五尺を保つを以て大船巨船概ね通航碇泊に便なり



美保の關

○ 帆立貝 烏帽子貝 胡刀 など走るべし

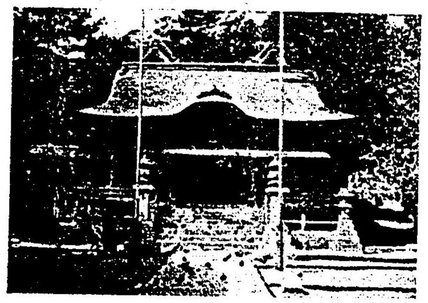
○美保の關 は境港の對岸島根縣出雲國八束郡の東南端に在り、境より小汽船に搭ずれば約四十分にて達す、此地中世の頃衛士を置きて往來を監視せしめしことあり、港內水深く波靜かなれば北海航行の船舶來つて風浪を避くるもの多し、市街は後に山を負ひ海に枕み東西約七丁南北半丁、戶數三百六十人口約千八百を有し、山粧水色の明媚なる能く凡筆の盡す所にあらず、殊に古來船客船員の遊樂地として名高く、絃歌山に響き嬌聲水に應へ陶々として四時春の如し

○ 史 仙

浮れ女の重ね羽織や美保ヶ關

○ 美保關俗謠

關の五本松一本切りや四本
あとは切られぬ夫婦松



美保神社

○美保神社 は美保ノ關の西北に在り、國幣中社にして事代主命三保津姫命を祀る、其鎭坐は遠き神代の昔にして歷朝の皇室の御崇敬深く、

就中後醍醐天皇隱岐國へ御遷幸の砌當社に寢して皇運の挽回を祈られ 今上陛下も又御劒を勅納あらせらるるなど、出雲大社に亞ぐ此國の舊社なり、左れど此社に詣づれば水難火難の神護ありとて信者甚だ多し、祭典は毎年二回之を行ひ四月七日は靑柴垣神事、十二月七日は諸手船の神事を執行し神符を得んとする雜沓實に名狀すべからざるものあり

○地藏ヶ崎燈臺 は美保關村の東端地藏崎に在り、石造三層の二等燈臺にして光達距離約二十浬に及ぶと云ふ北海の銀濤眼下を洗ひ、遙に隱岐の島影を望み壯觀云ふ可からず、又當郡港野波村瀨崎の海岸斷崖峭立せる所に七箇の洞門あり、土俗之を七ツ穴と稱し、常に日本海の怒濤山の如く押寄せ來りて巖壁に碎け、飛沫松翠の梢を掠めて風光雄大なり

物產 鮮魚、其他海產物、竹細工

旅館 渡邊、油屋、香川、引野、唐津屋、結城屋(以上境港)美保館、山根、福岡(以上美保ノ關)

料理店 幾田樓、遊鱗亭(以上境港)

樂訓 貝原益軒

旅行して他鄕に遊び、名勝の地山
水のうるはしき佳境にのぞめば良
心を感じおこし、鄙吝を洗ひすゝ
ぐ助となれり

乘客須知

乘客各位の御心得置き相成るべき事項を左に抄錄し御一覽に供し候

乘車賃金

◎當院所定の乘車賃金は先づ左記の如き遠距離遞減の賃率に依りて三等賃金を計算し、二等賃金を其五割増、一等賃金を其二倍半(即二、三等賃金の和に相當す)とせるものなれば各等共乘車區間の連續して長き程一哩宛て賃金の割合次第に低廉と相成候儿も近距離の御旅行に對しては以下記載の通り諸種の割引致居候へは長短何れの旅行を問はず多大の御便利あるべしと信じ候

(イ)	〇、一より 五〇、〇まで	毎一哩に付	一、六五
(ロ)	五〇、一より 一〇〇、〇まで	内五十哩は(イ)に依り殘餘の部分は 毎一哩に付	一、三〇
(ハ)	一〇〇、一より 二〇〇、〇まで	内百哩はロ)に依り殘餘の部分は 毎一哩に付	一、〇〇
(ニ)	二〇〇、一より 三〇〇、〇まで	内二百哩は(ハ)に依り殘餘の部分は 毎一哩に付	〇、八〇
(ホ)	三〇〇、一以上	内三百哩は(ニ)に依り殘餘の部分は 毎一哩に付	〇、七〇

各種割引乘車券

◎定期乘車券　本券は通勤、通學等の爲め毎日一定の區間を往復する人々に最便利なるものにして一箇月、三箇月、六箇月、一箇年通用の四種に分ち普通賃金の四割乃至八割引の大低減を以て院線内各區間各等共發賣致し候但學生諸君には三等に限り發賣し尚一層の割引可致候

◎回數乘車券　本券は商用其他にてしばゞ〳〵同一區間を往復する人々に最重寶なるものにて片道二十五回分を一冊に綴り其使用期限を九十日間と定め一家族の人(僕婢を含む)なれば誰にても使用し得る融通自在のものにして各線の主要なる區間に於て普通賃金の二割乃至三割引にて發賣致し候

但小兒は此乘車券一枚にて二人まで乘車することをゆるすものに有之候

◎團體乘車　二十五人以上同等級にて且同一の列車に片道二十哩以上御乘車の場合には其人員と哩程とに依り普通賃金より二割乃至四割引にて御取扱致すべく候

尚三百人以上の遊覽團體又は工場の職工、工女の娯樂團體等の御申込に對しては他の一般輸送に支障なき限り精々御便宜を圖り特別の御取扱致すべく候

◎學生團體乘車　二十五人以上延長十哩以上御乘車の場合には其人員と哩程とに依り普通賃金より二割五分乃至五割引(但三等に限る)にて御取扱致すべく候

急行列車券料金

◎新橋、神戸間新橋、下關間新橋、名古屋間及上野、平間の急行列車に御乘車の旅客は普通乘車券の外別に「急行列車券」御買求相成度其料金は左の通りに有之候

但小兒四年未滿は無料、四年以上十二年未滿は半額に有之候

一等	壹圓	百五十哩未滿
二等	六拾錢	壹圓五拾錢
三等	參拾錢	壹圓
		五拾錢

本券は發行當日より百五十哩未滿のものは三日間、百五十哩以上のものは五日間内に限り効力を有し候但該期限内と雖も途中の停車場に下車せられたる時は前途無効に有之候

乘車券通用期限

◎乘車券通用期限(すべて發行當日より起算す)は左の通りに有之候

五十哩未滿	一日	五十哩以上百哩未滿	二日
百哩以上百哩若くは其未滿を增す毎に一日を加ふ			

普通往復乘車券は五十哩未滿三日五十哩以上は前記に依り計算したる日數の二倍とす

通行税

◎乘客は普通賃金の外左の通行税御支拂相成たく候

一等	五 錢	五十哩又は五十哩未滿	百哩又は百哩未滿	二百哩又は二百哩未滿	二百哩又は二百哩以上
二等	參拾錢	四拾錢	貳拾錢	五拾錢	貳拾五錢

三等　壹錢　貳錢　參錢　四錢

割增運賃及增拂金

●乘車券御買求の暇なく係員（驛長、車掌以下同じ）の承諾を得て乘車せられ候か（係員の承諾を得ず乘車券面に記載の到著驛を乘越さるゝ場合を含む）又は係員の承諾を得て優等車に乘換へらるゝ場合には必ず其證票を御受取相成たく候尤も前段の場合には普通運賃の外別に二十錢の增拂金を申受くべく候

●左の事項に該當するときは普通運賃の外別に之れと同額の割增運賃を申受くべく候

(1)乘車券を所持せられざるとき（係員の承諾を得ず乘車券面に記載の到著驛を乘越したる場合を含む）

(2)無効の乘車券を以て乘車せられたるとき

(3)檢札の際乘車券を示されざるとき

(4)乘車券取取集の際御渡し相成らざるとき

尙係員の承諾を得ずして優等車に御乘換相成りたるときは其運賃差額の外別に之れと同額の割增運賃を申受くべく候

前各項の場合に際し其乘車驛の不明なるときは列車の仕立驛（乘換の場合は乘車券面の發驛）より御乘車相成りたるものと見做し又乘車等級の不明なるときは當該列車の最優等車に御乘車相成りたるものと見做し運賃を計算致すべく候

乘車券引換證

●本證は賃金拂込人の指定せらるゝ停車場に於て本證と引換に相當乘車券を御渡しする仕組のものにて二十日間の通用期限を有し之を自己の使用に供するときは旅行中現金携帶の不安を除き得るのみならず廣く賓客の招待、僕婢の遣喚、旅行者への進物等に用ひて最便利なるものに有之全線各驛竝に各市內營業所に於て毎一通（同一種の乘車券に對しては何枚にても一通にて宜し）に付金五錢の手數料を以て發行致し候

臨時（別仕立）旅客列車

●臨時旅客列車は運轉區間の哩數に依り左の割合にて漸次累加したる運賃を以て御請求に應ずべく候但其運賃總額が片道六十六個に滿たざるときは其金額を申受け又現乘車人員に對する普通運賃が此割合に依て計算せられたる運賃額を過超するときは其賃額を申受け候尤も客車の種類又は輛數等特に御指定相成候場合は客車貸切規程に依り賃金を申受け候場合も有之候

五十哩迄	一哩に付	金參錢參拾錢
百五十哩迄	同	金貳錢六拾錢
二百哩迄	同	金貳錢
三百哩迄	同	金壹錢六拾錢
三百哩以上	同	金壹錢四拾錢

五十哩以內の區間に發著する臨時列車にして發車時刻が夜半十二時より午前五時迄の間にかゝるものは別に三割の增賃金を申受くべく候

同一區間に發著する臨時列車にして往路の到著驛を二十四時間以內に出發する場合には前各項に依り計算せられたる運賃總額の一割五分を割引致すべく候

客車貸切

●客車の貸切に「普通貸切」と「特別貸切」との二種有之急行列車及特に指定したる列車に貸切をなす場合は特別貸切にして使用車の座席定數全部に對する賃金を申受け其他の列車に貸切をなす場合は普通貸切にして使用車の座席金數の三分の二（現に乘車する人員か座席定數の三分の二より多き場合には其現乘車人員）に對する賃金を以て御請求に應ずべく候但貸切を爲す區間の哩程が二十哩に滿たざるときは二十哩分を申受け尙本車輛現在驛を距る五十哩以上の區間に於て御使用相成候ときは別に廻送料を申受け候場合も可有之候

途中下車驛

●乘客は指定の途中下車驛に隨意下車の上乘車券通用期限內なれば再び他の列車に乘繼ぐことを得但し指定の下車驛以外の驛に下車せらるゝ時は所持の乘車券は前途未乘車の區間に對し効力なきものと御承知相成たく候

携帶品一時預り所

●主なる停車場には「旅客携帶品一時預り所」を設け御遊覽御用達等の爲め不便なる御携帶品を一時限り左記料

金を以て御預り致し候

重量三十斤以下　一日　貳錢　同三十斤以上百斤迄　一日　四錢

自轉車又は小兒車は　一日　五錢

告知板

●先發若くは先著等のため已より後れて同一の停車場に到る知人等に傳言を要せらるゝ場合の御便利を圖り主なる停車場に「告知板」(黑板に白墨を添ゆ)を備付け置き候に付隨意其用向きを御記載相成たく候

手荷物

●携帶及無賃制限　旅客の携帶乘車せらるゝ手荷物は成る可く網棚の上若くは腰掛の下に容れ得べき大さの物に限られ度然らざれば座席を塞ぎ又は通路を妨げ同乘車の迷惑と相成るべく候に付御到著まで御入用なき荷物は御託送相成度候然る上は一等旅客一人に付百斤(十六貫目)まで、二等同六十斤(九貫六百匁)まで、三等同三十斤(四貫八百匁)まで無賃にて輸送致すべく候但半賃金にて乘車する小兒の手荷物に對する無賃制限は夫々前記の半數量に候

託送手荷物の斤量が右の制限を超過する場合には其超過斤量に對し後記通常小荷物運賃と同率の賃金を申受くべく候

●手荷物配達　託送手荷物及旅客携帶の手荷物は停車場所在地市内若くば停車場より凡そ一里半以内の地ならば御指示の場所迄大小輕重に關はらず一箇に付金五錢にて速に配達方御取計らひ致すべく候

●列車の出發時刻に迫り手荷物の託送を御申込相成候ときは止むなく次便列車を以て運送する場合も可有之相互の遺憾勘からず候に付成るべく列車出發時刻より遲くも五分前に其手續相成度候

小荷物

●一般荷物中重量容積多大ならざるものは小荷物扱として低廉なる賃金にて旅客列車を以て最も迅速に運送致すべく卽ち運達を要する贈答品、商品及腐敗し易き鮮魚、野菜等を託送せらるゝに至極便利の仕組に候へば盛に御利用相成度候

●通常小荷物運賃　通常小荷物の運賃は左表の通に存之候

通常小荷物運賃

哩數	一斤	二斤	三斤	四斤	五斤	六斤	七斤	八斤	九斤	十斤	十二斤迄	十四斤迄	十六斤迄	十八斤迄	二十斤迄	以上五斤若くは其未滿を增すに本欄の金額を加ふ
五十哩未滿	七錢	七錢	七錢	七錢	七錢	七錢	一〇錢	一一錢	一二錢	一三錢	一五錢	一七錢	一九錢	二一錢	二三錢	四錢
百哩未滿	七	七	七	七	七	七	一一	一二	一三	一五	一七	一九	二一	二三	二五	六
百五十哩未滿	七	七	七	八	九	一〇	一二	一三	一五	一七	一九	二一	二三	二五	二七	七
二百哩未滿	七	七	八	九	一〇	一一	一二	一四	一六	一八	二〇	二二	二五	二七	二九	九
三百哩未滿	七	八	一一	一二	一四	一六	一八	二〇	二二	二五	二七	二九	三一	三三	三五	一一
四百哩未滿	七	九	一三	一四	一七	二〇	二二	二五	二八	三一	三四	三七	三九	四二	四五	一三
五百哩未滿	七	一〇	一四	一六	二〇	二三	二六	二八	三一	三四	三七	三九	四二	四五	四八	一五
七百哩未滿	七	一二	一六	一八	二二	二五	二八	三一	三四	三七	三九	四二	四五	四八	五一	一七
七百哩以上	八	一三	一八	二一	二三	二八	三三	三八	四三	四八	五三	五八	六三	七三	八三	一九
															九三	二一
															一〇三	二三

一箇以上の荷物に對しては一箇づゝ各別に運賃を計算いたし候

但「嵩高品」と稱し輕量にして嵩張りたる物品及「易損品」と稱し脆弱にして破損し易き物品若くは荷送人より特に易損呈扱を以て運送方を請求せられたる物品の運賃は前掲通常小荷物運賃の倍額を申受け候

●小荷物中貴重品扱に屬する金銀貨、貴金屬、寶玉石、其他高價なる製作品等は通常小物荷運賃の倍額を申受け候

●小荷物配達　通常小荷物(但車輛其他僅少の品種を除く)は其到著停車場所在地市内及停車場より凡そ一里半以内の地に限り無料にて迅速に配達致し候但託送の際特に到著停車場に留置くことを請求せられたる場合には「驛留小荷物」として取扱ひ到著の際直に其旨荷受人に御通知可致候

●保管料　旅客の託送せられたる手荷物及旅客附隨の小荷物は到著通知後二十四時間以内に御引出り之なき時は毎二十四時間若くは其未滿を經過するに從ひ重量と品種とに應じ金貳錢乃至拾貳錢の保管料を申受け候

●小荷物を託送するに方り列車を指定して搭載を望まるゝ方は該列車出發時刻より遲くも二十分前に託送の手續相成度又「附隨小荷物」として手荷物の如く旅客と同一列車にて運送することを望まるゝときは成るべく其御取計致すべくに付既記手荷物の託送と同樣列車の出發時刻より遲くも五分前に託送の手續相成度候

●下關、釜山間（壹岐丸、對馬丸、合下山丸、薩摩丸）青森、函館間（タービン式汽船比羅夫丸、田村丸、梅が香丸）岡山、高松間（玉藻丸、兒島丸）宮島、嚴島間及下關門司間の各航路に所屬の汽船を定期の時間に運航して鐵道の連絡を圖り併せて一般旅客、荷物の運送をも御取扱致し候

●境、下關間は大阪商船株式會社航路と連絡し京都、下關間本支線と杵築、温泉津、濱田、江崎、須佐、萩、仙崎各港相互間に又尾道多度津間及尾道今治間相互は東豫連輪株式會社と連絡し旅客小荷物の連帶輸送取扱候詳細は關係各驛に掲示致居候

寢臺車

●左記の線路に於ける急行及直行列車には寢臺車の設け有之其種類に應じ寢臺一箇に付普通乘車賃金の外別に左の使用料を申受け御使用に供し候

東海道線	一等專用彩臺	金四圓	
東海道線（東海道、山陽、東北、奥羽、九州、北海道線）	一等寢臺	金參圓	
	二等寢臺（二人床）	金貳圓四拾五錢	
	二等寢臺（上段）	金參拾錢	
	二等寢臺（下段）	金六拾錢	
山陽線	二等輕便寢臺	金參拾錢	

旅客多數の爲め寢臺に餘席なきこと屢々有之候に付使用御希望の際は成るべく御乘車の數時間以前に御申込の方御都合宜しかるべく尙御申込は郵便、電信、電話にても差支無之候

食堂車

●各線の急行及直行列車に設けある食堂車内に於ては何れも輕便にして新鮮なる西洋料理（飲料、菓子、果物等をも販賣す）又東海道郵便急行列車及三等急行列車は和食）を調進致候

客扱專務車掌及列車給仕

●各線の急行及直行列車には赤布の腕章を纏へる「乘客專務車掌」を乘込ませし座席の配當を整へ優等車の轉乘又は寢臺使用等の御請求に應じ列車の發著、接續、船車の連絡其他鐵道旅行に關する萬般の御質問に應答する等つとめて旅客各位の御便利を圖らしむる樣致し置き候

又前記列車の寢臺車及一、二等室には一定の服裝を爲したる「列車給仕」を乘込ませ御使役に充て置き候

明治四十五年六月一日印刷
明治四十五年六月七日發行

發行兼編輯人　今村一城
兵庫縣明石郡明石町ノ内大明石村
第二百七十八番地

印刷人　長谷順次
兵庫縣明石郡明石町ノ内大明石村
第二百七十八番地

發行所　鐵道畫報社
神戸市濱崎通四丁目卅九番地
電話一二六一番

關西蠶業本場
蠶具卸
丹波國福知山
芦田本店
電話六十八番
振貯大阪一八五四番

堅牢保險
ポンプ
御報次第
圖入正價
表送り升

丹波福知山下新町
かわきたや
㊀ 横川吳服店
電話十三番

丹波福知山下新町
吳服卸商
㊀ 山崎慶藏
電話五十四番

福知山町下柳通り
吳服商
片岡久兵衛
大阪振替貯金
第三〇八四番 電話三番

丹波福知山町
酩酒
酒鷹の春醸造元
高木半兵衛
電話臺番（本店用）
電話五〇番（岡ノ町酒造場用）

丹波福知山町
酩酒松翠
鶴印味淋醸造元
谷垣松次郎
振替貯金口座（大阪四六〇六番）
電話（百〇一番）

福知山下新町
紙文具
表具用品卸商
吉田紙店
電話二五番
振替大阪八九三九番

福知山吳服町郵便局前角
吳服太物商 吉田清助
電話百六十五番

福知山町新町通リ
小間物商 太谷村太兵衛
電話二三一番
振替（大阪）一四四六八番

福知山町吳服町角
正札附 安部吳服店
電話二百五番

丹波福知山町字下柳
和洋諸金物商 大森下伊兵衛
商號紅伊 電話一三五番

福知山新切通
ひら佐旅館
（電話三四番）

福知山町字上柳
いとり旅館
電話二四五番

丹波福知山吳服町
舶來雜貨商 大辻文永堂
電話三十八番

丹波國福知山廣小路角
黒 藥種商 黒庄藥局 吉田庄兵衛
電話二八番
振替口座大阪九二六七番

丹波福知山長町
足袋卸商 タ 高橋德藏
電話一九番
振替口座大阪八八一九番

丹波福知山下柳町
果實青物問屋 上田得藏
電話三十五番（電浴カ子）
振替口座（一〇三〇五番）
同 大阪（四六三四番）

福知山町字内記
船橋旅館
（電話六五番）

福知山吳服町
御旅館 万喜樓
電話（四九番）

福知山吳服町
余 堀忠旅館
電話百〇七番
電略ホリ

福知山驛前
御旅館 陳上館
電話二二六番

山陰本線福知山驛
日本運業株式會社取引店
全國運輸聯合會加盟店
福 池部組運送店
電話六三番（本店）二七番（支店）二二番
振替貯金口座 大阪二一二一番

丹波福知山町
吳服 佐藤治兵衛
電話貳番

丹波福知山町
酒あら菊醸造元 雀部鐵藏
電話二〇番

驛構内
雜貨販賣
並ニ各國洋酒卸賣
山陰線和田山驛
鈴木商店

養父驛前
米穀商 小林定次郎支店

養父驛前
内國通運株式會社取引店
西村運送店

滋車
御辨當壽し
並ニ食料品販賣所
山陰線和田山驛前
ア 鱗亭
親切叮嚀風味佳良

内藤運送店
營業地
野里、鶴居、生野、和田山、梁瀬、上夜久野、八鹿、江原、豊岡、城崎、竹野、佐津、香住、濱坂、

⊗ 内藤運送店
養父支店
振替口座大阪一六七一九番

内藤運送店
八鹿支店
電話三〇番

八鹿驛
丸生運送店

清酒
高岡源七醸
高賞

八鹿驛前
旅館
雜貨商
ゑびすや

旅館 八鹿町
鹿鳴館
すわや事
電話一二番

旅館 八鹿驛前
天下茶屋
（電話四番）

八鹿驛前
旅館
並ニ御料理
きぬ屋

八鹿町
御料理
新目
藝妓置屋
（電話二三番）

八鹿町
御料理 ㊥ 店
藝妓置屋

但馬豐岡京口町
㊀ 國產柳行李卸問屋
上田義三郎商店
長電話（二七番）
電信略號（ウエギ）、
振替口座大阪二、三〇七番

柳行季、柳バスケット
麻、續苧商
但馬豐岡中町
㊐ 和田垣淑
電話二三番

但馬豐岡町
はんだや
全
西垣吳服店
電話十五番
振替口座大阪一一二七六番

（但馬豐岡）

兵庫縣豐岡町
株式會社 新榮銀行
電信略號シンエ
電話七番

兵庫縣豐岡町
合資會社 寶林銀行
電信略號ホリン
電話二〇番
振替口座 大阪二、四〇五番 東京三、八三六番

兵庫縣豐岡町
無限責任 佐川銀行
電話七三番

豐岡町の中央番田町に位置し停車場に近く品質精良なる品のみを販賣する

〈三〉由利三藥舘

は藥品鑑定部、藥局、洋酒專賣部をも併せ有し三但に於ける老舗なり 電話三番

兵庫縣豐岡町
株式會社 豐岡銀行
電信略號〇トヨ
電話一〇番
振替口座大坂四、九一六番

但馬豐岡豐田町
御旅舘 あまや
電話一四番

（但馬城崎）

御旅舘

特効アルまんだら湯前
いづや旅舘
舘主 中垣吉造
電話十二番

古まんだらや旅舘
電話三十四番

まんだらや旅舘
電話十九番

驛ヨリ人力車賃金拾錢

城崎溫泉場
かめや旅舘
電話七番

城崎溫泉一の湯前
はし本や旅舘
電話八番

一の湯溫泉前
しなのや旅舘
電話十番
別莊新築落成

飲料界の覇王

名譽賞金牌受領其他金牌數個受領

曩ニ本品ヲ發賣スルニ當リ京阪神間ニ多大ノ好評ヲ以テ迎ヘラレ追日益益需用ノ劇增ヲ來シツヽアルハ弊商會ノ光榮トスル處ニ有之候近時競テ各製造所及大會社ニ於テ同種摸擬製品續々トシテ製出セラレタルニモ不拘依然トシテ本品獨特ノ眞價ヲ發輝シツヽアルハ製造上他品ノ企テ及バザル特色ト佳良ナル風味ヲ有スルニ外ナラズト雖モ一ハ賢名ナル江湖ノ御鑑識高キニヨルモノト感佩ノ外無之候今後更ニ一層精撰ヲ加ヘ大勉强ヲ以テ發賣可致候間多少ニ不拘御用命奉希候

神戸市加納町二丁目
トーゴー商會
電二八六一

(但馬城崎)

城崎温泉一の湯前
油屋旅館 **中島政吉**
電話五五番

ラヂユム最多量ナル **御所湯前**
御旅館
永樂屋旅館 電話四六番
榊屋旅館 電話七十九番
大津屋旅館 電話番

城崎銘菓
玄武糖
城崎煎餅
温泉クリーム
うづら燒

御菓子司
西洋酒洋食料品
やとなみ
電話六十二番

風景絶佳 空氣清良
城崎温泉
地藏湯前
大谷屋旅館 電話六五番
たけ庄旅館 電話五八番
はぎ原旅館 電話四五番
田木旅旅館
西彦旅館 電話三六番

但馬國濱坂町
三甚旅館事 鐘谷甚造

濱坂町字老松町
鯛屋事
御旅館 松森五平

濱坂名産御縫針
米國エクキデル生命保險會社
但馬總代理店
明治生命保險株式會社代理店
横濱火災 海上運送 信用保險株式會社代理店
針問屋 道盛利兵衛
但馬國濱坂町字味原

濱坂驛前
丸屋事
御旅館 松村辨藏

濱坂驛
北島屋旅館
○當驛ヨリ東へ二丁

濱坂町字老松町
車屋事
御旅館 平田半二郎
○濱坂驛ヨリ東一丁廻角

山陰御遊覽のおみやげハ
天下ノ靈泉タル城崎温泉ヲ使用シ
染上タル
實用温泉染
第一等に御座候
タオル、腹卷、浴衣地、手拭、半巾等
ニ優美ニ應用致候
製造發賣元
城崎温泉場
赤石屋吳服店

宮内省御買上ノ榮ヲ賜フ一貳回
內國勸業大博覽會有功賞受領
米國セントルイス萬國大博覽會最高賞受領
日英大博覽會金牌受領
特有名産麥稈細工商
幷ニ柳行李、手提籠
但馬城崎町（郡文商店）
竹內瀧藏
振替口座大阪四〇〇二番
電話三九番

二百年來の精巧技藝品
城崎名産桑細工商
但馬城崎温泉
上田敬藏商店
振替口座大阪二一八三番
電話五十九番

御所湯隣
三木屋旅館
電話三番

停車場前
同支店
電話三三番

(但馬城崎)

新築庭園落成
御所湯西隣
西村屋旅館
電話二番

城崎温泉
小林屋旅館
電話四番

一の湯前
うをや旅館
電話二二番

城崎温泉一ノ湯前
まつや旅館
電話六三番

城崎温泉一ノ湯前
いたや
電話四拾壹番
東西兩別莊至極閑靜ニ御座候

(但馬城崎)

城崎檢番組合料理店 (イロハ順)

近江家
河惣亭
鶴鳴樓
向陽樓
片桐亭
北垣樓
遊樂亭

城崎檢番藝妓

花香　若松　小金　万両　喜久子　増子　鶴羽　千奴　若福　若鈴　太郎　桃太郎　花歌津　愛吉　成駒

小静　手遊　福松　美佐雄　金彌　小龍　舞子　石奴　百千代　駒市　金吾　小太郎　春江　梅太郎　千代鶴　小松

東郷溫泉養生館

▲東郷湖畔の風光明媚と、養生館の靈泉とは世間既に定評あり、左に各新聞雜誌の記錄を拔萃して遊覽の栞とす。

○鐵道畫報

◎唯見る漂青碧瑠璃の如き處、曉烟暮嵐に隱見する、水中の一樓閣を睹るべし。東郷湖畔の養生館は即ち是れ也、周圍三里、美德、鉢伏、羽衣石の諸山之を繞りて、蒼翠影を醮し、初夏新錄の風味爽快謂はん方なし。

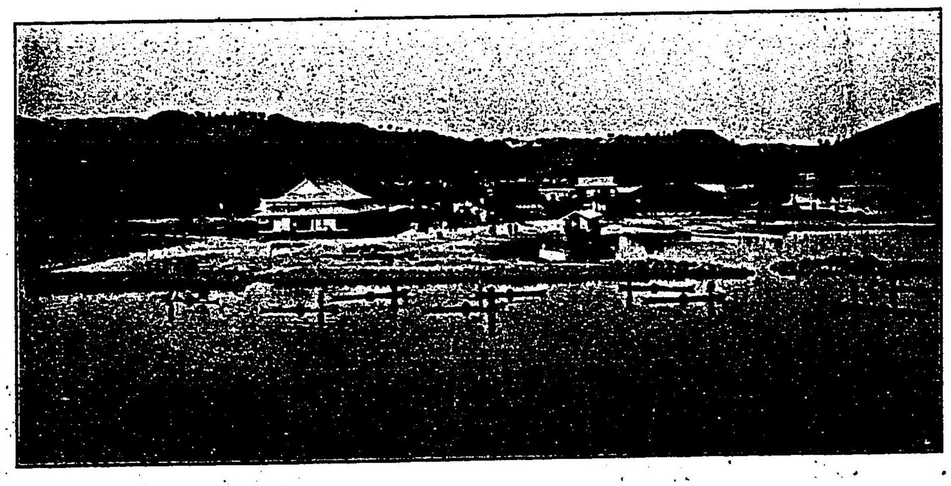
◎溫泉は湖中より湧出するもの、寛を設け之を導く四時浴槽の外に奔逸する清澄無色の鹽類泉は、滾々として俗腸を洗滌するに足るものあり。

◎殊に嬉しきは食膳の魚類なり、鯉、鰕、鰻、鼈等皆此湖中に漁獲したるもの、殊に鰻に到りては天下一品と稱すべく、其味の美なる他に多く比を見ざる也。

◎浴後湖心に葉舟を藉りて一日の小閑を樂しむ又快心のことたるを失はず（後略）、

○大阪毎日新聞

東郷湖畔、眺望第一の所、里人の所謂東郷御殿と稱するもの之を東郷溫泉養生館とす、館は明治十七年故山桝祥雲氏の創設に係り氏の沒後令嗣園太郎氏現館主として爾來益々盛隆を極む、敷地五千二百餘坪、數十の客室皆湖山に面し四個の浴槽亦水波に連なり恰かも水中の溫泉場たり泉質は清澄なる鹽類泉にして溫度攝氏四十三度、萬病適せざるなく特に松崎驛より僅に數丁の地に在り（中略）されば一度山陰道に足を入れたるものは必ず、一浴の



但馬城崎溫泉
油筒屋旅館

各皇族殿下を初めとし內外貴紳の御來泊を辱ふしたる我かゆこうやは詠歸亭と稱す鴻儒栗山柴先生の名する所なり庭園幽淸にして六七の別莊を有し夏凉に冬暖に療養的浴客には眞に適當の宿舍なり

城崎溫泉
いせ屋旅館
齋藤惣二郎
電話三五番

城崎溫泉
若狹屋旅館
電話二〇番

城崎溫泉許
湯乃花本家
武內藥舗

優等淸酒
サクラ正宗

城崎溫泉
やうとや
電話二六番

時間を要意すべき溫泉にして試みに文人墨客の題詠一二を下欄に擧げん。

◎遊東鄕湖養生館　末松謙澄

東鄕爲勝區久矣、而未幷有亭樹樓臺塲飲客吟詠者、其有之始千養生館、館係祥雲山桝翁所經營、翁前年相地於湖南岸、沿川埋水、斗出湖中、其上造一館、即養生館也、引潮中所出溫泉設浴槽、閑翁猶有改修之志、不幸以客歲七月遽爲泉易翼、今茲予遊山陰過其地、淹留數日、會其小祥忌辰、感慨之餘、賦贈令閨園太郎君、湖心築得一亭成、中引溫泉溫且清、剩有風光太佳絡、幾人來結鴛鴦盟、湖心亭就水光分、祥叟風流久所聞、欲向其人々不見、歸舍影沒暮山雲。

◎伯州東鄕湖養生館中之作　古澤介堂

有水無亭不可畫、有亭無水俗殺人、山君眞是好事者、湖心亭築奮新、吾來似在方壺嶋、兩岸桃花春未老、溫泉一浴君湖光、晴好雨奇何足道、空對湖山戀斷腸、才思爭得似大蘇、倚亭望君因歎息、勝境如此天下無、

◎遊養生館　編引東海

湖心霜濤月華淨、山影波光人倚極、一道覓溫波湧、坐來浣却萬般愁、

○鷲城新聞

（前略）東鄕湖上晴好雨奇の景、曉煙暮嵐の觀よりも先づ東鄕溫泉の沿革に就て記せざるを得ない。養生館は當主園太郎氏の養父山桝直好翁が養老の傍ら溫泉を拓いて公衆浴場たらしめ、塵外に優遊した好箇逍愛の場所である、僕は今末松謙澄男の撰文に係る、直好翁紀功碑文に據つて翁の經歷を略述し、延て溫泉の現狀に及ぼさうかと思ふ。碑は松崎驛を降りて溫泉場に行く道傍に建設せられ、一見翁の舊事を偲ぶ好個の所謂る紀功碑である、故伊藤公の篆額、末松男の撰文、書は秋月新太郎氏の執筆に係るもの、土地有志の醵醵によりて建設されたものであるさうな、直好翁（中略）萬延元年の饑饉に際しては、貯ふところの粟三千俵を捐て、村民を賑はし、安政年間に於ける凶荒に際しても其の賑恤に關しては、尠からず斡旋盡力するところがあつた、其の後再度の年凶に際しても、賑恤若しくは、救荒の方法に就て當主に建白し、乃至救恤設の献上、さては軍資の獻納等、公共事業に盡瘁せしことは擧げて枚ふべからざる程である、明治の初年に方り細民の負債者を集めて勞役千圓を燒き盡し、以て細民を賑はしたこともある、撰文に據れば「衆皆感泣」とあり、以て當時の一般も想像せらるゝのである、（中略）當主園太郎氏は實に翁の甥に當り、嘗て養はれて嗣子たりしもの、翁の感化を受けて溫厚謹直の風姿は眉宇の間に溢れて居る。（後略）

伯耆國東鄕溫泉

△東鄕大將は天下の名將なり

溫泉旅館

△東鄕溫泉は天下の名勝なり

養生館

館主　山桝園太郎

通

山陰西線御來屋驛前

內國通運取引店

丁遞業社

富永豐藏

御來屋特產松材

松材
松角

機械挽製材

松長丸太專業

其他御隨意ノ松材各位ノ御
囑托ニ應スヘク候

山陰線御來屋驛前

明

明石製材所

建築請負業　明石彦太郎

當園は伯耆富士の曉色太夫橋の夕照を一眸に收めて風景佳絶四時の眺めに富み客室の擴張浴室内花檀の新設等總て面目を一新致候
旅客の待遇は懇切叮嚀を旨とし料理は精新なるを撰び且つ和洋料理は御好みに應じ候間陸續御一遊を待入候

山陰線淀江驛より二丁
淀江海水浴
御料理
御旅館 不老園
竹中とよ

○鐵道畫報所載の一節

○（前略）されど、此風趣情景は、他に求めて得べからざるに非ず、獨り市内地に吉方溫泉のあるに仍つて茲に千釣の重みを加へ、竟に鳥取に山陰絶好の煙霞療養地たるを失はざる也

○梅言すれば、鳥取の山水を離れて吉方溫泉を語るべからず、又吉方溫泉を閑却して鳥取の風物を說くべからず、鳥取の風物と吉方溫泉とは兩々相俟つて、始めて、茲に渾然たる煙霞を作す。

○予、鳥取に到著したるの日、俥を賃して吉方溫泉場に到り鳥取溫泉旅館に宿る、初頭先づ予を驚かしたるは遊客を迎ふる設備の完全せること也。

鳥取溫泉旅館（鳥取市吉方溫泉場）

市街地にして溫泉の湧出せるは本邦中當市あるのみ、泉質は無色透明の食鹽泉溫度は百廿度當館は特に内湯を有し入浴の便最も宜しく山野眺望市内最勝の地にあり、停車場ゝ距を僅に五丁設備萬端山陰隨一の好評を博す

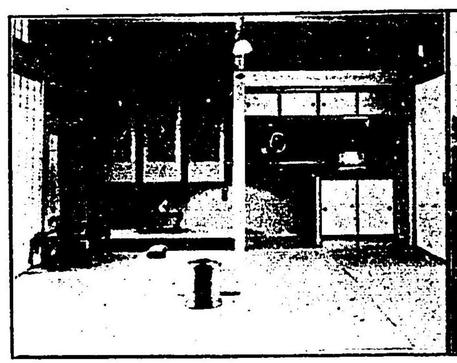
館主 荒川完
長電話四番

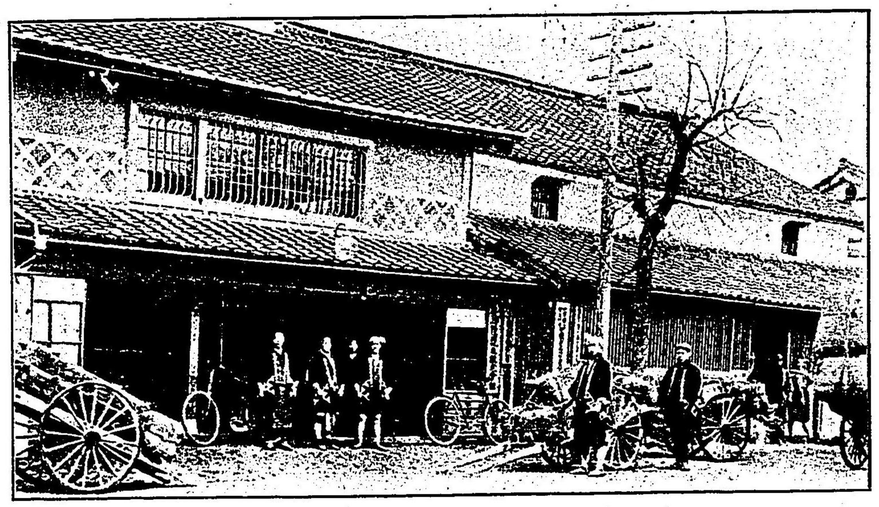
○導かれたるは、八疊と六疊の二室よりなれる新築の二階にして、八疊の室には違棚及一間の床あり、床には狩野古法眼の筆に成れる雙幅を懸け、置物、文庫の配置など瀟洒なる處に意を凝らしたる苦心の跡を見るべく、眞に遊客をして旅愁を忘れしむるに足るものあり

○一夜、障子を啓き站つて欄に倚れば、月明甚だ佳し、庭園を隔てゝ遠く煙りたる千頃の田圃に咲き亂れたる菜種の花微かに暗香を送り、岩美、氣高、八頭の連山は茫として夢の如し、輙ち羽化して仙境に遊べるやを疑はしめ全く人間塵俗の緣を絶たしむ

○儘し矣れ一盞を傾け、就寢に先だつて入浴せんか、四時滾々として無色透明の靈泉地中より湧出し清潔なる人造石製の浴漕外に湧逸するさま、快感喩ふべからず。

（後略）（黑面迂客）





日本遞業株式會社取引店

山陰線米子驛前

米子海陸運送株式會社

電話九番

新但旅館

鳥取市川端町三丁目

但見與市

電話長一〇一番

KAMITAJI HOTEL

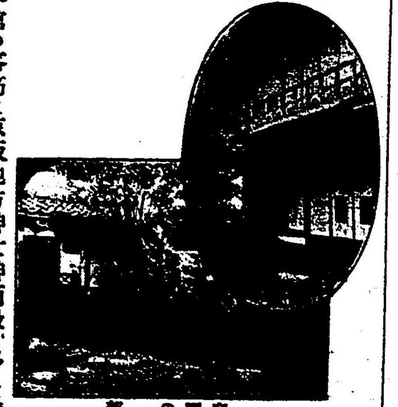
TOTTORI, KAWABATA

市の中央

上但旅館

長電話一〇二番

客室の一部



庭園の一部

本館の客筋は京阪地方紳士紳商最も多し鳥取へ御來觀の節は曲げて御投宿の程祈上候

鳥取市川端町

吉成屋旅館

館主　北川喜平謹白

電話長百二十二番

鳥取旅館　米善

創立者　藩政時代米屋善四郎

山陰本線米子停車場前
內國通運株式會社米子取引店
神戸海上運送火災保險株式會社代理店

石田運送店

陸運電話一二番　三〇八番
振替口座東京一六二九〇番

辨當、すし、御支度、
和洋酒、新聞、雜誌、
雜貨、玩具、土產物、
懷中藥、其他

米子驛構內
米五旅館支店
電話 本店四五番 支店二六七番
同驛待合所內
同上賣店

清酒
高蘭
高岡

名物

精進料理　胡瓜名產漬
嬉し野　港揚げ
翁味噌　八雲錦
山の雪　瑞光漬
清水山椒　山の栗

出雲國清水寺境內

料理店
西村藤屋店
青砥紅葉館
松家
仲田櫻屋店
青山琴松樓

安來驛ヨリ一里拾八丁米子驛ヨリ弐里

海陸運送業

海運聯絡
大阪商船ニ依ルモノ、山陰、瀨戸內、南海、九州、東京、臺灣、韓國、南清、北清、楊子口、其他各國航路合同滊船ニ依ルモノ米子、境、松江、宍道、莊原、平田、馬潟、大根島、其他沿岸各港

合資會社
大阪商船株式會社
安來回漕店
安來扱店

商船便每月二十回

資本金參拾萬圓
出雲國安來町
株式會社 安來銀行
電話五番
振替口座（大阪）四八〇五番
支店 廣瀬、荒島、母里

出雲國安來港
安 內外米商 山根万之助
電話第二十番
〇ヤス又は〇

生鰻 鮮魚 問屋
出雲安來港
雲品組
松本佐重
電話三十六番

營業種目
砂糖 麥粉 乾物
荒物 諸紙 塗物
洋釘 麥酒 木綿
日用雜貨商

元祿印 小麥粉
獅子印 燐寸
特約販賣

安來名產 登錄商標 手延饂飩 白不二印
年產額五萬圓
出雲國安來町
㊀ 原德兵衛
發電〇二電話三四番
大阪振替八三九八番
㊁ 製麵部

高等御旅館
松江市殿町
一文字屋本店
（驛ヨリ西北六丁）電話一一〇番

同停車場前
御旅館 御休息所
一文字屋支店
電話三二九番

松江市末次本町
御旅館 岩田屋本店
長電話四拾番

松江市末次本町
御旅館 岩田屋支店
長電百五拾四番
本館は松江湖畔にありて眺望絶佳待遇懇切叮嚀なり

松江市天神町
御旅館 景山旅館
電話二百七拾番

鐵道連絡紀念 三階建築披露
和洋 御料理
調理美味眺望絶佳入浴設備
松江市殿町京橋西河岸
悅笑軒 岡阪家
電話（五百拾六番 參拾五番）

松江湖畔（長電話十六番）
御旅館 赤木館
館主 赤木寛一郎
本館の特色は眺望絶佳にして待遇最も懇切叮嚀なり

出雲大社旅館案内

大鳥居町 いなばや 長電拾貳番

馬場町 本間 電八番

馬場町 虎屋

大鳥居町 大島屋 電拾五番

馬場町 小川屋 電拾四番

下原 竹の屋 電七番

宮内 八幡屋

宮内 増吉屋 電六番

北越峠 まつしや 電拾二番

大鳥居町 松田屋

馬場町 森屋 電拾番

馬場町 藤原屋 電九番

大鳥居町 須谷

出雲大社名物

羊羹 大鳥居町 高田屋

八雲飴 宮内 岩石屋

御みやげ品 北越峠 吉川隆二

出雲わかめ 馬場町 武田正三郎

玉椿醬油釀造 出雲安來港 横山榮之助 電話八番

海岸通 横山倉庫 電話十一番

汽車積貨物取扱驛前 横山運送店 電話七十四番

日本遞業株式會社取扱店 山陰線安來驛前 庫 金庫運送店 電話（二六番（本店用）七〇番（事務用））

鐵道、汽船、帆船、貨物取扱業

內國通運株式會社取引店 山陰線安來驛前 ㊦ 合資會社 安來運輸組 電話七十八番

蠶絲屑物問屋 出雲安來港 ㊟ 但見吟八 電話七十七番

島根縣安來港 ㊟ 米穀商 富田商店 電話十五番

出雲國安來町 ㊞ 材木商 高木店 電話四十七番 電略タカ又ハ（タ）

出雲國安來港

㊤ 精米商 福島助太郎

出雲安來港

御料理 山常樓

電話四〇番

山陰線荒島驛前

E通E

內國通運株式會社取引店

多久和運送店

電話(〇ツ又ハつ)

特産 荒島石材製造 及ビ荒島石粉販賣業

出雲國野義郡荒島町

岩田辰右衛門

材板類 木角物 一切卸商

㊤ 材木商

出雲國安來港 商號 今太 並河太助

電話十二番

製品 優秀高速度鋼 特別硬質工具用鋼 及物用特種鋼及通常鋼 其他和鐵玉鋼各種

弊所は皇太子殿下行啓の際御使遣なさしたる陰鑑界唯一の光榮を有す

出雲國安來町

㊟ 安來鐵鋼合資會社

代表者 伊部喜作

電話三十五番

木炭問屋

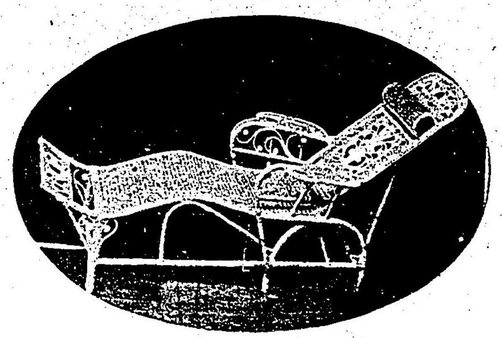
出雲國安來港 西仲仕組

頭取 金森常太郎

電話二十七番

389
118

西部鐵道管理局御用達



籐椅子寢臺
乳母車籐莚
製造販賣
神戸市北長狹通三丁目鐵道側
（三ノ宮驛東）
木村賢一商店

339
118

339
118

025863−000−3

339−118

山陰名勝乃栞

今村　一城／編

M45
ADC−3416